令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	国語		学年	3 学年	単位数	2 単位
科目名	文学国語		担当者	坂口 英樹		
使用教材	文学国語(東京書籍)					
	カラー版新国語便覧(第一学習社)、実用国語の演習(中部日本教育文化会)、セレクト漢字検定(桐原書店)					
学習目標	1 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。					
	2 文章を読むことを習慣化するとともに、共感したり、想像したりする力を伸ばすとともに、自分の将来の生き方と結びつけて創造的に考える力を養う。					
	3 生涯にわたって読書に親しみ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。また、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。					
学習方法	1 筆者が文章によって何を伝えようとしているかを的確に捉えられるように、重要部分の抜き出しや要約に取り組む。分からない語句を読み飛ばさず、興味を持って調べる習慣を付ける。					
	2 取り扱った文章や教材に関して自分なりの意見を持ち、それを条件(時間や文字数)に合わせて発表したり、文章にまとめたりする。					
	3 補助テキストや便覧を用いて、国語常識に関する小テストを行うので、日頃から語彙や文学史の学習に取り組むことを推奨する。					
必ず取り組む最小目標	<ul style="list-style-type: none"> レポートや本文の要約などの課題を提出する。 国語常識に関するテストなどに向けて、家庭でも学習する習慣を付ける。 					
実現したいと思う最大目標	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の主張やテーマを的確に捉えるとともに、自分の身近なことを結びつけながら、自分なりに考え、論理性や説得力のある意見を持つ。 					
評価の方法及び評価基準ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 休み明けテスト 小テスト 		<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 提出された課題の内容 		<ul style="list-style-type: none"> 学習活動への取り組み状況 課題提出状況
	A	実社会に必要な国語の知識や技能を十分身に付けている。		「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。		言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させている。
B	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。		「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。		言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させている。	
C	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けていない。		「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしていない。		言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させていない。	

年間計画			評価の観点					
月	週	単 元	学 習 内 容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	2	(入学式)						
4	3	○オリエンテーション	・一年間を通じたテーマ「ことばとは何か」について考え、意見を交換する。 ・本文を読み解くキーワードである「国語」と、私達の母国語である「日本語」との違いについて考える。	○	○			
	4	「ことばとはなにか」						
	5	○随筆「国語から旅立って」 温又丞						
	1	(連休)						
5	2	○小説「コンビニの母」 森絵都 ○小説「檸檬」 梶井基次郎 ○梶井基次郎に関わる文学史					○	
	3							・森絵都の作品を鑑賞するとともに、筆者の他の作品について知る機会とする。
	4							・京都の町をイメージするとともに、「檸檬」の主題を考える。
	5							・梶井基次郎の生い立ちや他の作品について理解を深める。
6	1	(前期中間考査)						
	2	○随筆「クレールという女」 須賀敦子 ○小説「鞆」 安部公房 ○安部公房に関わる文学史			○	○		
	3							・随筆を通して、様々な価値観があることを知り、自らの考えを深めるきっかけとする。
	4							・安部公房の作品に触れるとともに、筆者の他の作品に触れる機会とする。
7	1	(学校祭)						
	2	○戦争について考える ○「玉砕の島を生きて」の視聴					○	
	3							・ドキュメンタリー番組「玉砕の島を生きて」を視聴し、戦争の実態の一面を知るとともに、戦争とは何であるかを、自分なりに定義して文や文章にまとめる。
	4							・「玉砕の島を生きて」の視聴
8	1	(夏季休業)						
	2	(夏休み明けテスト)						
	3	○小説「沖縄の手記から」 田宮虎彦					○	
	4							・教科書の小説「沖縄の手記から」(田宮虎彦)を鑑賞し、唯一の地上戦・沖縄戦の現状を知るとともに、登場人物の信条や内面の葛藤を読み取る。
9	2	(前期期末考査)						
	3	○評論「文学の未来」 小野正嗣 ○小説「葉桜と魔笛」 太宰治			○	○	○	
	4							・筆者の考える文学作品との向き合い方を理解するとともに、自分なりに文学作品とどのように向き合うべきかを考える。
	5	・昭和を代表する作家・太宰治の作品を鑑賞する。						
10	1	○太宰治について			◎		○	
	2							・太宰治の生涯やその他の作品について知識を深める。
	3							見学旅行
11	1	○評論「映画の可能性のために」					○	
	2							・「モノローグ」と「ダイアローグ」の違いについて理解する。
	3	・「脚本」を改稿するたびに筆者が感じる違和感とは何かを理解する。						
	4	(後期中間考査) ※「文学国語」の考査は実施せず。						
12	1	○小説「あの朝」 角田光代 ○角田光代の作品について ○評論「演技する私」 安藤宏			○	○	○	
	2							・小説を読み、それぞれの小説の中に隠れているメッセージを読み取るとともに、自分の生活との結びつきについて考える。
	3							・
	4							(冬季休業)
	2	(冬休み明けテスト)						
1	3	○小説「映画「六日目の蟬」の鑑賞			○	○	○	
	4							・映画と原作を比較するとともに、テーマと筆者の主張を理解する。
	5	(前期期末考査)						

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	国語	学年	3 学年	単位数	2 単位
科目名	古典探究	担当者	谷 美幸		
使用教材	教科書:新編古典探究(東京書籍) 教材:体系古典文法(数研出版)・体系古典文法準拠ノート(数研出版)、古文単語330(文英堂)、 古文単語330ワークノート、カラー版新国語便覧(第一学習社)				
学習目標	1 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深める。 2 作品にある先人のものの見方、感じ方、考え方に触れることで、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばす。 3 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 4				
学習方法	1 本文を繰り返し読む。予習で音読・授業で速読(時間を計測し、変化を見る)を習慣化する。確実に読めることが確実な内容理解につながる。 2 予習として本文をノートに書き写し、授業での書き込みができるようにしておく。また、語句を調べて自分でできるだけ通釈をしてみる。毎回、古文単語の小テストを行うので予習の習慣をつける。語彙を豊かにすることが読解力につながる。 3 板書は確実にノートに書く。板書以外でも大切なと思われることはノートに書き留めるようにする。質問に積極的に答えるだけでなく、作品から伝わるものを自分のこととして捉え直し、比較して考えてみる。単元ごとの課題に対応できるようなノートを作成する。				
必ず取り組む最小目標	古文・漢文の読みを確実にし、作品内容を理解できる。古典の世界に興味関心を持ち、自主的に古典学習に取り組むことができる。				
実現したいと思う最大目標	文法事項を理解し、辞書を利用して本文の現代語訳ができる。時代背景・作者の考え・登場人物の心情を理解し、現代に生きる自分自身と比較し、豊かに表現することができる。				
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、課題 ・夏休み明けテスト ・小テスト、単元テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・課題への取り組み状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への取り組み状況 ・課題、ノート提出状況 	
	A	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を深く身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養っている。	
B	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解をしようと努めている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるよう努めている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養うよう努めている。		
C	国語の知識や技能を身に付けていない。また、言語文化に対する理解を深めていない。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるよう努めていない。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養うよう努めていない。		

年間計画			評価の観点				
月	週	単元	学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	2	(入学式)					
4	3	「古今和歌集仮名序」紀貫之 文法事項①「修辞」	当時の人々の心と言葉(歌)の関係を読み取る。 修辞(準拠ノート) ※古文単語330は毎時小テスト	○	○		
	4	「大鏡」道真の左遷	歴史物語について知る。和歌に込められた心情を読み取る。菅原道真に関する時代背景について調べる。	○		○	
	5	(連休)					
5	2						
	3	「古事記」倭建命	日本神話について知る。上代文学の特徴をふまえ、登場人物の心情を読み取る。	○	○		
	4						
	5						
	1	(前期中間考査)					
6	2	文法事項①「敬語」	敬語①②(準拠ノート)	○			
	3						
	4	「源氏物語」光君の誕生	「源氏物語」について知る。敬語表現に注意して内容を読み取る。登場人物についての理解を深める。	○	○		
	5						
7	1						
	2	(学校祭)					
	3	「源氏物語」若紫	登場人物の心情の変化を読み取る。多数ある現代語訳を調べ、比較する。	○		○	
	4						
	5						
8	1						
	2	(夏季休業)					
	3						
	4						
	5	古体詩「飲酒」「子夜呉歌」	詩の形式・押韻を確認し、情景を読み取る。		○		
9	2						
	3	(前期期末考査)					
	4						
	5						
10	1	「史記」灑池之会	「史記」について確認し、秦王との駆け引きを読み味わう。	○	○		
	2						
	3						
	4						
11	1	「史記」勿頸之交	前単元を踏まえ、二人が親交を結んだ経緯を理解する。	○	○		
	2						
	3						
	4	(後期中間考査)					
12	1	「史記」勿頸之交	この作品と類似した故事成語を調べ、テーマを設定して随筆を書く。		○	○	
	2						
	3						
	4						
	5	(冬季休業)					
1	2						
	3	「聞旅雁」「送夏目漱石之伊予」	詩の形式・押韻を確認し、情景を読み取る。	○			
	4						
	5	(後期期末考査)					

令和7年度 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	国 語		学年	3 学年	単位数	3 単位
科目名	発展現代文		担当者	前田 英伸		
使用教材	力をつける現代文 ステップ3(数研出版)、現代文単語ノート(文英堂)					
学習目標	1	「現代の国語」で学んだ内容を基に、実践的な国語力の充実を図る。				
	2	現代文の問題演習を行い、論理的な思考力を身につける。				
	3	1と2の目標を達成することで、意見や主張を的確に書いたり話したりする能力を養う。				
学習方法	1	日頃から、意識して語彙力の向上に努め、読解の基礎を固めるよう心がけてください。				
	2	現代文の問題を的確に読み取る力を身につけることができるよう演習に取り組んでください。				
	3	「話すこと」・「書くこと」も重視します。授業時の活動や課題に意欲的に取り組むこと。積極的に学ぼうとする意欲が学習の成果に繋がります。				
必ず取り組む最小目標	語句調べ、課題の期限内の提出、小テストや定期考査にむけた学習を進んで行き、文章を適切に読み取る力を養う。					
実現したいと思う最大目標	分析的に読みを進める手法を学んだり、情報をまとめて報告する方法を学んだりして、「話す・聞く・読む・書く」力の総合的な力を養う。					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。					
	観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	小テスト、定期考査(前期末・後期末)	プリント、ワークノートへの取り組み、小テスト、定期考査(前期末・後期末)		授業時の参加状況、プリント、ワークノートへの取り組み	
	A	実社会に必要な国語の知識や技能を十分身に付けている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。		言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させている。	
B	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。		言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させている。		
C	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けていない。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしていない。		言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させていない。		

年間計画

評価の観点

月	週	単 元	内 容	評価の観点		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	2	(入学式)				
	3	オリエンテーション	自己紹介、進路ガイダンス、進路アンケート		○	○
	4	読解・解説・論述練習	力をつける現代文①・② 現代文単語ノート1～3	○	○	○
	5	(連休)				
5	1	(連休)				
	2	読解・解説・論述練習	力をつける現代文③・④ 現代文単語ノート4～6	○	○	○
	3	問題演習	練習問題1	○	○	○
	4	小論文学習①	小論文に関する基本的な知識・技能を身につける。	○		
	5	〃	〃	○		
6	1	(前期中間考査)				
	2	読解・解説・論述練習	力をつける現代文⑤・⑥ 現代文単語ノート7～9	○	○	○
	3	読解・解説・論述練習	力をつける現代文⑦・⑧ 現代文単語ノート10～12	○	○	○
	4	問題演習	練習問題2	○	○	○
	5	小論文学習②	自分の体験を元に、主張をまとめる。		◎	○
7	1	〃	〃		◎	○
	2	読解・解説・論述練習	力をつける現代文⑨・⑩ 現代文単語ノート13～16	○	○	○
	3	(学校祭)				
	4	読解・解説・論述練習	力をつける現代文⑪・⑫ 現代文単語ノート17～20	○	○	○
	5	(夏季休業)				
8	2	(夏季休業)				
	3	(夏季休業)				
	4	問題演習	練習問題3	○	○	○
	5	小論文学習③	「社会問題」について調査し、主張をまとめる。		◎	○
	9	1	(前期期末考査)			
2		小論文学習③	「社会問題」について調査し、主張をまとめる。		◎	○
3		読解・解説・論述練習	力をつける現代文⑬・⑭ 現代文単語ノート21～23	○	○	○
4		読解・解説・論述練習	力をつける現代文⑮・⑯ 現代文単語ノート24～27	○	○	○
5		問題演習	練習問題4	○	○	○
10	1	小論文学習④	主題に対して自分の立場を明らかにし、主張をまとめる。		◎	○
	2	〃	〃		◎	○
	3	読解・解説・論述練習	力をつける現代文⑰・⑱ 現代文単語ノート28～30	○	○	○
	4	読解・解説・論述練習	力をつける現代文⑲・⑳ 現代文単語ノート31～33	○	○	○
	5	問題演習	練習問題5	○	○	○
11	1	読解・解説・論述練習	力をつける現代文㉑・㉒ 現代文単語ノート34～36	○	○	○
	2	読解・解説・論述練習	力をつける現代文㉓・㉔ 現代文単語ノート37～40	○	○	○
	3	問題演習	練習問題6	○	○	○
	4	(後期中間考査)				
12	1	問題演習	現代文単語ノート41～54	○	○	○
	2	問題演習	練習問題7・8	○	○	○
	3	問題演習	現代文単語ノート55～60 練習問題9	○	○	○
	4	(冬季休業)				
	5	(冬季休業)				
1	2	(冬季休業)				
	3	小論文学習⑤	社会の課題解決へ参画していくにあたり、自分の主張をまとめる。		○	◎
	4	〃	〃		○	◎
	5	(学年末考査)				

令和7年度 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	国 語	学年	3 学年	単位数	3 単位
科目名	国語表現	担当者	前田 英伸 ・ 坂口 英樹		
使用教材	国語表現【大修館書店】、新国語便覧【第一学習社】				
学習目標	<p>1 これまで国語の授業で学んだ内容を基に、基礎的な国語力の充実を図る。</p> <p>2 論理的な思考力を身に付け、自己表現力を磨く。</p> <p>3 国語力の向上や社会生活の充実を図る態度を養う。</p>				
学習方法	<p>1 日頃から、意識して丁寧に「話す・聞く・読む・書く」ことに努めること。また、自分の意見も相手の意見も大切にしようと思えること。</p> <p>2 「書くこと」についての課題が多くなります。文は突然書けるようにはなりません。授業や課題を通して根気強く取り組んでください。</p> <p>3 「話すこと」・「聞くこと」も重視します。授業時の活動や課題に意欲的に取り組むこと。積極的に学ぼうとする意欲が学習の成果に繋がります。</p>				
必ず取り組む最小目標	言葉の力を磨き、自分の考えを適切に話したり、文にすることができるようになるとともに、相手の考えを理解し、日常生活や自己の表現に生かすことができる。				
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	「国語における一般常識」を確かなものとするとともに、分析的に読みを進めたり、情報をまとめて報告する方法を学んだりして、文章の整え方や書き方などを習得する。				
	A	実社会に必要な国語の知識や技能を十分身に付けている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させている。	
	B	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させてようとしている。	
C	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けていない。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしていない。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させてようしていない。		

令和7年度「国語表現」年間計画

評価の観点

月	週	単 元	内 容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	1	(入学式)					
4	2	オリエンテーション・自己紹介	科目の目的を理解する。テーマに沿った自己紹介を行う。		○	○	
	3	言葉と出会う	正しい表記方法や原稿用紙の使い方を理解する。	○		○	
	4・5		文を整え、わかりやすい文を書く。接続表現を学ぶ。	○		○	
	1	(連休)					
5	2	読んで表現に活かす①	「言葉・日本語」に関する文章を読み、表現活動に活かす。		○	○	
	3	表現活動①	テーマに沿って自分の考えや意見を表現する。		○	○	
	4	表現活動②	テーマに沿って自分の考えや意見を表現する。		○	○	
	5	国語の知識テスト	漢字の構成、同音異義語について学ぶ。(新国語便覧)	○		○	
	1	(前期中間考査)					
6	2	自己PRと面接	これまでの高校生活を振り返り、「現在の自分」を的確に捉えて表現する。		○	○	
	3	志望理由を書こう	説得力のある志望理由をまとめる練習をする。	○	○	○	
	4	表現活動③	テーマに沿って自分の考えや意見を表現する。		○	○	
	5				○	○	
7	1	発表・評価	他の生徒の発表を聞くことで、自らの意見や考え方を広げたり、深めたりする。		○	○	
	2	(学校祭)					
	3	表現活動④	テーマに沿って自分の考えや意見を表現する。		○	○	
4				○	○		
	1	(夏季休業)					
8	2						
	3	発表・評価	他の生徒の発表を聞くことで、自らの意見や考え方を広げたり、深めたりする。		○	○	
	4	国語の知識テスト	同訓異字語・難読語について学ぶ。(新国語便覧)	○		○	
	1	(前期期末考査)					
9	2	小論文・レポート入門	理由や根拠を明確にして、説得力のある意見を述べる方法を学ぶ。	○	○	○	
	3	表現への扉(小論文を書くために)	現代社会の問題点を考える契機となる文章や資料を読む。		○	○	
	4	表現活動⑤	テーマに沿って自分の考えや意見を表現する。		○	○	
	5				○	○	
10	1	読書のひろば	多くの優れた文章に触れ、多様な考え方や生き方を知る。		○	○	
	2	読書をする	自分が興味・関心のある本を読む。		○	○	
	3				○	○	
	4	表現活動⑥	自分が読んだ本の感想文を書く。		○	○	
	5				○	○	
11	1	発表・評価	他の生徒の発表を聞くことで、自らの意見や考え方を広げたり、深めたりする。		○	○	
	2	言葉で遊ぶ	「回文」、「折句」とは何かを理解し、自分の作品を創作する。		○	○	
	3	国語の知識テスト	四字熟語・対義語について学ぶ。(新国語便覧)	○		○	
	4	(後期中間考査)					
12	1	読んで表現に活かす②	「人生・仕事・読書」など、さまざまなテーマで文章をよみ、表現活動の参考にする。		○	○	
	2	表現活動⑦	自分でテーマを決めて、エッセイ・随筆を書く。		○	○	
	3				○	○	
	4						
	5	(冬季休業)					
1	2						
	3						
	4	国語の知識テスト	動植物の読み・書き誤りやすい語・慣用句について学ぶ。(新国語便覧)	○		○	
	5	(学年末考査)					

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	公 民	学年	3 学年	単位数	3 単位
科目名	政治・経済	担当者	杉村 峰行		
使用教材	教科書:政治・経済(東京書籍701) 資料集:最新図説 政経(浜島書店)				
学習目標	<p>1 民主主義の重要性を理解し、政治経済に関心を持ち、主体的に社会を構成する一員としての自覚を高める。</p> <p>2 現代社会の政治・経済を主体的にとらえ、環境・労働・福祉などさまざまな社会問題を考える。</p> <p>3 日本や世界の諸地域で起きている諸問題に関心を寄せ、生き方を考える。</p>				
学習方法	<p>1 授業中最低限のルールを守る。こと。(1)私語をしない(2)チャイム前着席・授業の準備を忘れない(3)ノートやプリントの記載は丁寧に書く(4)ノートには、メモ、まとめ、感想や意見を記入する</p> <p>2 授業を大切にすること。(1)説明・質問・注意をよく聞く(2)教科書・課題を熟読する(3)プリント・資料を活用する(4)授業の内容について自分でまとめ、課題を発見し意見を論理的に表現する</p> <p>3 家庭学習を続けること。(1)日常の家庭学習課題へまじめに取り組む(2)2週間前には考查前の復習をはじめる(3)夏季・冬季休業中の重点課題も頑張る(必ず提出。提出しないと評価が大きく下がる)</p>				
必ず取り組む最小目標	生徒としての最低限の義務を果たす(1)出席する(2)私語・居眠りをしない(3)チャイム前着席・授業の準備を忘れない(4)ノートやプリントの記入は丁寧に				
実現したいと思う最大目標	生徒としての義務をクリアするばかりではなく、積極的に学習し現代社会の諸問題を深く考察する(1)プロセスを重視(2)調べ学習(3)表現力(4)冷静で公正な態度(5)コミュニケーション能力				
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に3段階A、B、Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A、B、Cで評定を行うとともに、5段階で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	定期考査、課題、小テスト	定期考査、課題	学習活動状況、課題	
	A	①積極的に意見を述べ仲間と学習できている ②気がついたことがあればノート・メモを取るなど記録することができる ③ポイントを選び、自分なりにまとめをすることができる	①理解したことをもとに自分の意見を持ち、仲間にわかりやすく表現できる ②課題を解決できる	①興味や関心があることに取り組むことができる ②わからないことや気になることを調べたり、教員や仲間に聞いて解決することができる	
B	①話している人を見て、うなずくなど反応しながら話を聞いている ②黒板に書かれていることに加えて、ポイントをメモすることができる	①理解したことをもとに自分の意見を持ち、表現できる ②課題を見つけ、解決方法を見つけようとしている	①毎日、学習した内容を復習できる ②わからないことや気になることを調べたり、教員や仲間に聞いて解決しようとする		
C	①話している人を見て話を聞いている ②黒板の内容をノートに取ることができる ③提出物を期日まで提出できる	①アドバイスがあれば意見を持つことができる ②アドバイスがあれば課題をグループとともに解決することはできる	①考查前は学習した内容を復習できる ②提出物を期日まで提出できるように取り組める		

年間計画				評価の観点		
月	週	単 元	内 容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	2	(入学式)				
4	3	1-1-1 民主政治の成立	民主政治の成立過程	○	○	○
	4	1-1-2 基本的人権の確立	法の支配、人権の歴史的展開	○	○	○
	5	1-1-3 現代の民主政治	政治体制	○		○
	1	(連休)				
5	2	1-1-4 世界のおもな政治体制	民主政治の展開とポピュリズムなど現代の民主政治の動向、政治体制	○		○
	3	1-2-1 日本国憲法の制定と基本原理	明治憲法と日本国憲法を比較しながら、その成立の意義	○	○	○
	4	1-2-1 日本国憲法の制定と基本原理	明治憲法と日本国憲法を比較しながら、その成立の意義	○		○
	5	1-2-2 基本的人権の保障	憲法の下、国民に保障されている権利を学び、その意義	○		○
6	1	1-2-2 基本的人権の保障	時代の進展と共に起こった新しい人権			
	2	(前期中間考査)		○	○	
	3	1-2-3 平和主義	平和主義の意義を多面的に考え、国際社会における日本の位置付け	○		○
	4	1-3-1 国会と立法、1-3-2 内閣と行政	国会の組織・権限、機能や内閣のしきと権限	○		○
	5	1-3-3 裁判所と司法、1-3-4 地方自治	司法の役割や司法権の独立、裁判の仕組みと地方自治の仕組みや課題	○		○
7	1	1-4-1 戦後政治と政党、1-4-2 選挙と政治意識	連立政権の時代にあって無党派層はどう位置づけられるか	○	○	○
	2	1-4-3 世論と政治参加、1-5-1 国際政治の特質	支持率と無党派層の選挙行動、国際社会と国際法の成立	○		○
	3	(学校祭)				
	4	1-5-2 国際社会と国際法	国際社会の秩序維持、国際法	○		○
8	2	(夏季休業)				
	3					
	4	1-5-3 国際連合の役割と課題、1-5-4 戦後国際関係	平和、人権と課題、冷戦後の国際関係	○		○
9	5	1-5-5 国際政治の課題	反核運動、冷戦終結後の軍縮、難民問題、テロ	○		○
	1	1-5-6 地球環境 1-5-7 国際社会における日本の役割	グローバル化とガバナンス、エネルギー問題、日本の外交、国際貢献	○		○
	2	(前期期末考査)		○	○	
	3	2-1-1 資本主義経済の成立と発展	古典経済学から修正資本主義への変容	○		○
	4	2-1-2 現代経済の特質、2-2-1 経済主体と経済の循環	グローバル化などの現代経済の特徴と経済主体	○		○
10	5	2-2-2 生産の仕組みと企業、2-2-3 市場経済の機能と限界	企業の役割や活動と市場経済における需要と供給の仕組みなど	○		○
	1	2-2-4 国民所得と経済成長	経済活動を把握するための指標と景気変動の要因など	○		○
	2	2-2-5 金融のしくみと機能	貨幣の成り立ちと金融政策	○		○
	3	2-2-6 財政のしくみと機能	財政の役割、現状について学ぶ	○		○
	4	2-3-1 経済再建から高度成長へ、2-3-2 オイルショック後の日本経済、2-3-3 日本経済の現状	経済復興からバブル崩壊を経て現在にいたる日本経済の動向	○		○
11	5	2-4-1 公害と環境保全、2-4-2 消費者問題	公害の原因や公害対策と消費者問題の課題など	○	○	○
	1	2-4-3 農業・食料問題、2-4-4 中小企業の現状と課題	農業の現状と今後のあり方と日本における中小企業の位置づけと課題	○	○	○
	2	2-4-5 雇用と労働問題	労働問題の歴史や労働をめぐる環境の変化と現在の雇用問題	○	○	○
	3	2-4-6 社会保障と福祉	社会保障の意義や仕組み、日本の社会保障制度の課題	○	○	○
	4	2-5-1 貿易と国際収支	自由貿易の考え方と歴史、外国為替・為替レート・国際収支など	○		○
12	5	(後期中間考査)		○	○	
	1	2-5-2 国際経済体制の展開	IMF-GATT体制の成立からWTOの成立と現代の課題	○		○
	2	2-5-3 発展途上国の経済	南北問題の要因と経済格差是正に向けての取組	○		○
	3	2-5-4 地域主義の動き、2-5-5 グローバル化する世界経済	地域経済統合の広がりFTA・EPA、国際経済の中の日本の役割	○	○	○
	4	3-1 日本社会の諸課題	日本社会の諸課題について、教科書中の課題の中からいくつか学び考える	○		○
1	5	(冬季休業)				
	2					
	3					
1	4	3-2 国際社会の諸課題	国際社会の諸課題について、教科書中の課題の中からいくつか学び考える	○		○
	5	(後期期末考査)		○	○	
2		家庭学習期間				○
3		卒業				

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	地理歴史	学年	3 学年	単位数	4 単位
科目名	日本史探究	担当者	寺嶋 優駿		
使用教材	教科書 高等学校 日本史探究 新視点による日本通史とアジア・世界 (清水書院)				
	史料集 図説 日本史通覧 (帝国書院)				
学習目標	1 我が国の歴史の展開に関する諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解し、調査や諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる。				
	2 我が国の歴史の展開に関する事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、歴史的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察、構想、表現する。				
	3 我が国の歴史の展開に関する諸事象について、よりよい国家や社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、我が国や他国の伝統や文化を尊重する。				
学習方法	1 授業を大切にすること 〔教科書の熟読、作業の丁寧さ、プリント・資料集の活用〕				
	2 テスト前に試験範囲は完璧に学習して仕上げる。 〔1～2週間前から教科書・ノート・プリントなどで丁寧に復習する。〕				
必ず取り組む最小目標	授業に臨む際には、生徒として最低限の義務を果たす。 〔居眠りをしない。私語を慎む。欠席数は充分注意すること。授業に必要な教材教具の用意、授業ノートの作成、配布プリントのファイル化、提出物の厳守〕				
実現したいと思う最大目標	日本の歴史について学ぶことで、日本の将来・未来により良い考えと行動が発揮できる人材となる。				
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評価を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	・定期考査 ・課題 ・小テスト	・定期考査 ・課題 ・小テスト	・定期考査への取り組み状況 ・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況	
	A	①積極的に意見を述べ仲間と学習できている ②気がついたことがあればノート・メモを取るなど記録することができる ③ポイントを選び、自分なりにまとめをすることができる	①理解したことをもとに自分の意見を持ち、仲間にわかりやすく表現できる ②課題を解決できる	①興味や関心があることに取り組むことができる ②わからないことや気になることを調べたり、教員や仲間に聞いて解決することができる	
B	①話している人を見て、うなずくなど反応しながら話を聞いている ②黒板に書かれていることに加えて、ポイントをメモすることができる	①理解したことをもとに自分の意見を持ち、表現できる ②課題を見つけ、解決方法を見つけようとしている	①毎日、学習した内容を復習できる ②わからないことや気になることを調べたり、教員や仲間に聞いて解決しようとする		
C	①話している人を見て話を聞いている ②黒板の内容をノートに取ることができる ③提出物を期日まで提出できる	①アドバイスがあれば意見を持つことができる ②アドバイスがあれば課題をグループとともに解決することはできる	①考査前は学習した内容を復習できる ②提出物を期日まで提出できるように取り組める		

年間計画			評価の観点		
月編	単元	学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		(入学式)			
	序 私たちはなぜ歴史を学ぶのか	<ul style="list-style-type: none"> 歴史への関心を高めるとともに、歴史を学ぶ視点や意義、歴史資料の特性についての関心と課題意識を高める。 		○	○
	第1章 黎明期の日本列島と歴史的環境	<ul style="list-style-type: none"> 黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成、原始社会の特色を理解する。 	○	○	○
	1 日本列島域の旧石器文化とはどのようなものか	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境と人間生活との関わり、中国大陸・朝鮮半島などアジア及び太平洋地域との関係、狩猟採集社会から農耕社会への変化などに着目して、環境への適応と文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現する。 	○	○	○
	2 縄文人はどのような暮らしをしていたのか				
	3 弥生人はどのような暮らしをしていたのか	<ul style="list-style-type: none"> 黎明期の日本列島と歴史的環境について、見通しを持って学習に取り組み、課題を主体的に追究する。 	○	○	○
		<ul style="list-style-type: none"> 原始・古代の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身につける。 	○	○	○
4	第2章 歴史資料と原始・古代の展望	<ul style="list-style-type: none"> 前章の学習を踏まえ、黎明期の日本列島の変化に着目して、原始社会の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。 歴史資料の特性を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、原始・古代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。 歴史資料と原始・古代の展望について、見通しを持って学習に取り組み、課題を主体的に追究する。 	○	○	○
	第3章 古代の国家・社会の展開と画期	<ul style="list-style-type: none"> 国家の形成と古墳文化、律令体制の成立過程と諸文化の形成などを基に、古代の政治・社会や文化の特色を理解する。 	○	○	○
	第1節 古代国家の形成と東アジア	<ul style="list-style-type: none"> 中国大陸・朝鮮半島との関係、隋・唐など中国王朝との関係と政治や文化への影響などに着目して、主題を設定し、小国の形成と連合、古代国家の形成の過程について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 	○	○	○
	4 倭国は東アジア世界とどうかかわったのか				
	5 前方後円墳は何をあらわしているのか				
	6 ヤマト政権はどのように倭国をまとめていたのか	<ul style="list-style-type: none"> 古代国家の形成、古代の政治・社会や文化の特色について、見通しを持って学習に取り組み、課題を主体的に追究する。 	○	○	○
	7 飛鳥文化を生み出した背景とは				
	8 律令国家はどのように形成されたのか				
	9 律令体制の仕組みとは				
	10 奈良時代の政治はどのように推移したのか				
	11 天平文化を生み出した背景とは				
	〈女性の歴史〉1 出土資料にみる生中時代の女性				
		連休			
5	第2節 古代国家の推移と社会の変化	<ul style="list-style-type: none"> 貴族政治の展開、平安期の文化、地方支配の変化や武士の誕生などを基に、律令体制の再編と変容、古代の社会と文化の変容を理解する。 地方の諸勢力の成長と影響、東アジアとの関係の変化、社会の変化と文化との関係などに着目して、主題を設定し、古代の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 律令体制の再編と変容、古代の社会と文化の変容について、見通しを持って学習に取り組み、課題を主体的に追究する。 	○	○	○
	12 律令政治の再建はどのようにおこなわれたのか				
	13 平安初期の文化はどのような国際環境で育まれたのか				
	14 摂関時代の政治はどのように推移したのか				
	15 東アジアの変動と国風文化にはどんな関係があるのか				
	〈もっと知りたい日本史〉2 仏像からみる古代史				
	〈もっと知りたい日本史〉3 国風文化を生み出した東アジアの変				

5	第1章 中世への転換と歴史的環境 16 中世社会はどのようにして成立したのか 17 国家の武力はだれがになったのか 18 中世の国家はどのように形成されたのか 19 「武者の世」はどのようにしてはじまったのか	<ul style="list-style-type: none"> 政治主体や土地支配の変容を基に古代から中世への時代の転換を理解する。 権力の主体の変化, 東アジアとの関わりなどに着目して, 古代から中世の国家・社会の変容について, 多面的・多角的に考察し, 表現する。 古代から中世への転換と歴史的環境について, 見通しを持って学習に取り組み, 課題を主体的に追究する。 	☐	☐	☐
	第2章 歴史資料と中世の展望	<ul style="list-style-type: none"> 中世の特色を示す適切な歴史資料を基に, 資料から歴史に関わる情報を収集し, 読み取る技能を身につける。 前章の学習を踏まえ, 古代からの時代の変化に着目して, 中世の特色について多面的・多角的に考察し, 時代を通観する問いを表現する。 歴史資料の特性を踏まえ, 資料を通して読み取れる情報から, 中世の特色について多面的・多角的に考察し, 仮説を表現する。 歴史資料と中世の展望について, 見通しを持って学習に取り組み, 課題を主体的に追究する。 	☐	☐	☐
	第3章 中世の国家・社会の展開と画期 第1節 武家政権の成立と展開 20 鎌倉幕府はどのようにして成立したのか 21 鎌倉幕府はどのように勢力を拡大したのか (もっと知りたい日本史)4 硫黄の交易にみる東部ユーラシアと日本列島 (地域の歴史)1 東国御家人の移住—西遷御家人・北遷御家人 22 鎌倉仏教の特色は何か 23 鎌倉文化の特色は何か 24 モンゴル(元)はなぜ日本を攻め取れなかったのか 25 鎌倉幕府はなぜ滅びたのか	<ul style="list-style-type: none"> 武家政権の成立と展開, 産業の発達, 宗教や文化の展開などを基に, 武家政権の伸長, 中世の社会や文化の特色を理解する。 公武関係の変化, 宋・元などユーラシアとの交流と経済や文化への影響などに着目して, 主題を設定し, 中世の国家・社会の展開について, 事象の意味や意義, 関係性などを多面的・多角的に考察し, 歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 武家政権, 宗教と文化の展開について, 見通しを持って学習に取り組み, 課題を主体的に追究する。 	☐	☐	☐
6	第2節 武家政権の変容と中世の社会 26 建武政権はなぜ崩壊したのか 27 室町幕府の政治はどのように推移したのか 28 元寇後の東アジアの交流はどのようなものか (もっと知りたい日本史)5 中世の随筆から読み解く社会と「唐物」 (地域の歴史)2 古代・中世の蝦夷地とアイヌ	<ul style="list-style-type: none"> 政治や文化の多元化, 多様化, 国際関係の変化などを基に, 地域権力の成長, 社会の変容と文化の特色を理解する。 社会や経済の変化と影響, 東アジアの国際情勢の変化とその影響, 地域の多様性, 社会の変化と文化の関係などに着目して, 主題を設定し, 中世の国家・社会の変容について, 事象の意味や意義, 関係性などを多面的・多角的に考察し, 歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 武家政権, 宗教と文化の展開について, 見通しを持って学習に取り組み, 課題を主体的に追究する。 	☐	☐	☐
	29 一揆はどのようにして生まれ, 中世の自治を支えたのか 30 中世の産業は民衆生活をどのように豊かにしたのか 31 中世の商業・流通はどのようにうごいたのか 32 戦国時代はなぜはじまったのか 33 戦国大名の領国支配の国際的背景とは	前期中間			

7	第3編 近世の日本と世界	第1章 近世への転換と歴史的環境	<ul style="list-style-type: none"> 政治・経済政策や対外関係を基に中世から近世への時代の転換を理解する。 村落や都市の支配の変化, アジアやヨーロッパとの交流などに着目して, 中世から近世の国家・社会の変容について, 多面的・多角的に考察し, 表現する。 	○	○	○	
		35 近世初頭の東アジア情勢はどのようなものか 36 信長と秀吉はどのようにして天下を統一したのか		○	○	○	
7		37 秀吉の政治と対外政策はどのようなものか 38 信長・秀吉の時代の文化の特色は何か 〈地域の歴史〉4 九州地方と東アジア海域世界 〈もっと知りたい日本史〉6 秀吉の対外政策	<ul style="list-style-type: none"> 中世から近世への転換と歴史的環境について, 見通しを持って学習に取り組み, 課題を主体的に追究する。 	○	○	○	
		学校祭					
7		第2章 歴史資料と近世の展望	<ul style="list-style-type: none"> 近世の特色を示す適切な歴史資料を基に, 資料から歴史に関わる情報を収集し, 読み取る技能を身につける。 前章の学習を踏まえ, 中世からの時代の変化に着目して, 近世の特色について多面的・多角的に考察し, 時代を通観する問いを表現する。 歴史資料の特性を踏まえ, 資料を通して読み取れる情報から, 近世の特色について多面的・多角的に考察し, 仮説を表現する。 歴史資料と近世の展望について, 見通しを持って学習に取り組み, 課題を主体的に追究する。 	○	○	○	
		夏季休業					
8	第3編 近世の日本と世界	第3章 近世の国家・社会の展開と画期	<ul style="list-style-type: none"> 支配秩序や対外関係, 技術・産業・文化の展開などを基に, 幕藩体制の確立や近世の社会と文化の特色を理解する。 織豊政権との類似と相違, アジアの国際情勢の変化, 交通・流通の発達, 都市の発達と文化の担い手との関係などに着目して, 主題を設定し, 近世の国家・社会の展開について, 事象の意味や意義, 関係性などを多面的・多角的に考察し, 歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 幕藩体制の確立や近世の社会と文化について, 見通しを持って学習に取り組み, 課題を主体的に追究する。 	○	○	○	
		第1節 幕藩体制の成立と近世の社会 39 幕藩体制はどのようなものか 40 江戸時代の社会はどのようなものか 41 近世の国際関係はどのように形成されたのか 〈地域の歴史〉5 近世の蝦夷地とアイヌの人々 〈地域の歴史〉6 近世の琉球と奄美 42 江戸幕府の政治はどのように推移したのか 43 江戸時代の産業はどのように発展したのか 44 江戸時代の交通と都市はどのように発達したのか 45 儒学と学問はどのように展開したのか 46 江戸時代中期までの文化の特色は何か 〈もっと知りたい日本史〉7 近世社会を構成したさまざまな人々 〈女性の歴史〉3 江戸時代の遊女					
9		前期末考査					
		第2節 幕藩体制の動揺と社会の変化 47 百宗はどのような政治をおこなったのか 48 村と町はどのように姿をかえていったのか 49 田沼の政治や寛政の改革は何をめざしたのか 50 外国船の接近は幕府にどのような影響をあたえたのか 51 幕府・諸藩はどのような改革をおこなったのか 52 近世後期の文化の特色は何か 53 近世後期の学問や思想はどのように発達したのか 〈もっと知りたい日本史〉8 江戸時代の朝幕関係 〈地域の歴史〉7 元禄大地震と大	<ul style="list-style-type: none"> 政治体制や社会の動揺, 産業・学問の発展, 庶民の生活や文化などを基に, 幕藩体制の変容, 庶民の生活と文化の特色, 近代化の基盤の形成を理解する。 社会・経済の仕組みの変化, 幕府や諸藩の政策の変化, 国際情勢の変化と影響, 政治・経済と文化の関係などに着目して, 主題を設定し, 近世の国家・社会の変容について, 事象の意味や意義, 関係性などを多面的・多角的に考察し, 歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 近世の政治や社会の変容, 近代化の基盤について, 見通しを持って学習に取り組み, 課題を主体的に追究する。 	○	○	○	

<p>第1章 近代への転換と歴史的環境</p> <p>54 日本はなぜ開港したのか 55 開港は国内にどのような影響をあたえたのか 56 尊王攘夷運動はどのように展開したのか 57 江戸幕府はどのように滅びたのか</p> <p>第2章 歴史資料と近代の展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対外関係や政権の転換を基に近世から近代への時代の転換を理解する。 ・ 欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化, 政治・経済の変化と思想への影響などに着目して, 近世から近代への国家・社会の変容について, 多面的・多角的に考察し, 表現する。 ・ 近代への転換と歴史的環境について, 見通しを持って学習に取り組み, 課題を主体的に追究する。 ・ 近代の特色を示す適切な歴史資料を基に, 資料から歴史に関わる情報を収集し, 読み取る技能を身につける。 ・ 前章の学習を踏まえ, 時代の転換に着目して, 近代の特色について多面的・多角的に考察し, 時代を通観する問いを表現する。 ・ 歴史資料の特性を踏まえ, 資料を通して読み取れる情報から, 近代の特色について多面的・多角的に考察し, 仮説を表現する。 ・ 歴史資料と近代の展望について, 見通しを持って学習に取り組み, 課題を主体的に追究する。 	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
見学旅行				
<p>第3章 近現代の地域・日本と世界の画期と</p> <p>58 新政府はどのような国家をめざしたのか 59 明治政府はどのような経済政策を進めたのか 60 明治政府の宗教・文教政策はどのようなものだったのか 61 明治初期の対外関係はどのように変化したのか 〈地域の歴史〉8 近代の蝦夷地・北海道 〈地域の歴史〉9 近代の琉球・沖縄</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 明治維新, 自由民権運動, 大日本帝国憲法の制定, 文明開化の風潮, 条約改正などを基に, 立憲体制への移行, 国民国家の形成, アジアや欧米諸国との関係の変容を理解する。 ・ アジアや欧米諸国との関係, 地域社会の変容, 欧米の思想・文化の影響などに着目して, 主題を設定し, 近代の政治の展開と諸外国との関係の確立について, 事象の意味や意義, 関係性などを多面的・多角的に考察し, 歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 ・ 明治維新や国民国家の形成, 産業の発展の経緯, 近代の文化の特色について, 見通しを持って学習に取り組み, 課題を主体的に追究する。 	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
後期中間考査				
<p>62 欧米文化は社会にどのような影響をあたえたのか 63 自由民権運動はなぜはじまったのか 64 自由民権運動はなぜ衰退したのか 65 立憲体制はどのようにして確立したのか 66 条約改正はどのようにして達成されたのか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日清・日露戦争などを基に, 立憲体制の推移や展開, 国民国家の形成, アジアや欧米諸国との関係の変容を理解する。 ・ 日清・日露戦争が及ぼした影響などに着目して, 主題を設定し, 近代の政治の展開と国際的地位の確立について, 事象の意味や意義, 関係性などを多面的・多角的に考察し, 歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>

1 1	67 日清戦争前後の国内政治はどのようなものか 68 日清戦争はなぜおきたのか 69 日清戦争後の東アジア情勢はどのように推移したのか 70 日露戦争はどのような戦争だったのか 71 日露戦争後の東アジア情勢はどのように変化したのか 72 近代産業はどのように発展したのか	<ul style="list-style-type: none"> アジアや欧米諸国との関係の変容について、見通しを持って学習に取り組み、課題を主体的に追究する。 産業革命の展開、学問の発展や教育制度の拡充、社会問題の発生などを基に、産業の発展の経緯と近代文化の特色を理解する。 産業の発達背景と影響、地域社会における労働や生活の変化、教育の普及とその影響などに着目して、主題を設定し、日本の工業化の進展と近代の文化の形成について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 近代の産業の発展と近代の文化の特色について、見通しを持って学習に取り組み、課題を主体的に追究する。 	○	○	○	
	13 江雲問題に政府はどのように対応したのか 74 明治の思想・教育・学問の特色は何か 75 明治文化の特色は何か 〈女性の歴史〉4 製糸業と工女 〈もっと知りたい日本史〉9 近	後期中間考査				
	第2節 政党政治と大衆社会 76 政党政治はどのように発展したのか—明治から大正へ	<ul style="list-style-type: none"> 第一次世界大戦、社会運動の動向、政党政治などを基に、政治参加の拡大の意義、アジアや欧米諸国との関係の変容、大衆社会の形成を理解する。 	○	○	○	
1 1	77 第一次世界大戦に日本はどのようにかかわったのか 78 第一次世界大戦は日本にどのような影響をあたえたのか 79 第一次世界大戦後の日本外交はどのようなものか 80 大正デモクラシーとはどのようなものか 81 政党内閣制はどのようにして確立したのか 82 大正前後の文化の特徴は何か 〈女性の歴史〉5 新しい女 〈地域の歴史〉10 関東大震災	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会における労働や生活の変化、第一次世界大戦が及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、国民の政治参加の拡大と日本の工業化の進展について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 アジアや欧米諸国との関係の変容や大衆社会の形成について、見通しを持って学習に取り組み、課題を主体的に追究する。 	○	○	○	
	第3節 第二次世界大戦と日本の社会	<ul style="list-style-type: none"> 恐慌と国際関係、軍部の台頭と対外政策、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開などを基に、第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会、国民生活の変容を理解する。 	○	○	○	
1 2	83 昭和初期の経済不況はどのようなものだったのか 84 昭和初期の外交はどのようなものだったのか 85 ファシズムはどのようにして台頭したのか 86 日本はなぜ国際連盟を脱退したのか 87 軍部はどのようにして台頭したのか 88 日中戦争の長期化のなかでつくられた戦時体制とは	<ul style="list-style-type: none"> 国際社会やアジア近隣諸国との関係、政治・経済体制の変化、戦争の推移と国民生活への影響などに着目して、主題を設定し、第二次世界大戦と日本の動向の関わりについて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 第二次世界大戦に至るまでや戦時中の政治や社会、国民生活の変容について、見通しを持って学習に取り組み、課題を主体的に追究 	○	○	○	
	第4編 近現代の地域・日本と世界	89 第二次世界大戦は日本にどのような影響をあたえたのか 90 アジア太平洋戦争はどのように推移したのか 91 戦時下の国民生活はどのようなものだったのか 92 アジア太平洋戦争はどのようにして終結したのか 〈地域の歴史〉11 都市への空襲と模擬原爆投下訓練 〈もっと知りたい日本史〉10 戦時下の植民地と満州				
			冬季休業			

1	第4節 現代の日本と世界	93 占領政策はどのように進められたのか	<ul style="list-style-type: none"> 占領政策と諸改革, 日本国憲法の成立, 平和条約と独立の回復, 戦後の経済復興などを基に, 我が国の再出発及びその後の政治や対外関係を理解する。 	○	○	○
		94 占領下の経済と政治はどのように推移したのか				
1	第4節 現代の日本と世界	95 戦後の経済政策はどのように転換したのか	<ul style="list-style-type: none"> 第二次世界大戦前後の政治や社会の類似と相違, 冷戦の影響などに着目して, 主題を設定し, 戦前と戦後の社会の変容, 戦後政治の展開について, 事象の意味や意義, 関係性などを多面的・多角的に考察し, 歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 	○	○	○
		96 戦後の人々の暮らしはどのようなものか				
1	第4節 現代の日本と世界	〈もっと知りたい日本史〉11 アジアの解放	<ul style="list-style-type: none"> 第二次世界大戦後の社会や政治について, 見通しを持って学習に取り組み, 課題を主体的に追究する。 	○	○	○
		〈地域の歴史〉12 復員と引揚げ—舞鶴港				
1	第4節 現代の日本と世界	97 冷戦は占領政策にどのような影響をあたえたのか	<ul style="list-style-type: none"> 第二次世界大戦後の社会や政治について, 見通しを持って学習に取り組み, 課題を主体的に追究する。 	○	○	○
		98 独立後の政治はどのように推移したのか				
1	第4節 現代の日本と世界	99 55年体制はなぜ成立したのか	<ul style="list-style-type: none"> 第二次世界大戦後の社会や政治について, 見通しを持って学習に取り組み, 課題を主体的に追究する。 	○	○	○
		100 独立後の日米関係はどのように変化したのか				
2	第4節 現代の日本と世界	〈地域の歴史〉13 沖縄と基地	<ul style="list-style-type: none"> 第二次世界大戦後の社会や政治について, 見通しを持って学習に取り組み, 課題を主体的に追究する。 	○	○	○
		101 高度経済成長はなぜおきたのか				
2	第4節 現代の日本と世界	102 高度経済成長は社会にどのような影響をあたえたのか	<ul style="list-style-type: none"> アジア諸国との関係, 高度経済成長, 社会・経済・情報の国際化などを基に, 戦後の経済や対外関係, 国民生活の変容, 現代の政治や社会の枠組みを理解する。 	○	○	○
		103 55年体制下の政治はどのように推移したのか				
2	第4編 近現代の地域・日本と世界	104 1990年代の政治や経済におきた変化とは	<ul style="list-style-type: none"> 冷戦の推移と終結, グローバル化の進展の影響, 国民生活や地域社会の変化などに着目して, 主題を設定し, 戦後政治の展開, 日本経済の発展, 戦後の国際社会における日本の役割について, 事象の意味や意義, 関係性などを多面的・多角的に考察し, 歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 	○	○	○
		105 日本はこれからどのような道を歩むのか				
2	第4編 近現代の地域・日本と世界	〈もっと知りたい日本史〉12 『昭和天皇実録』にみる昭和天皇の幼少期	<ul style="list-style-type: none"> 現代の政治や社会の枠組みにつながる戦後の政治や経済, 外交, 社会について, 見通しを持って学習に取り組み, 課題を主体的に追究する。 	○	○	○
		〈もっと知りたい日本史〉13 戦後の文化				
後期期末考査						
3	主題学習	第4章 近現代の歴史の画期	<ul style="list-style-type: none"> 日本と世界の相互の関わり, 地域社会の変化, これまでの近現代の学習で見出した画期などに着目して, 事象の意味や意義, 関係性などを構造的に整理して多面的・多角的に考察し, 日本の近現代を通じた歴史の画期を見出し, 根拠を示して表現する。 第3章までの学習を振り返るとともに, 科目のまとめである次の学習へのつながりを見出す。 	○	○	○
		高校入試				
3	主題学習	第5章 現代の日本の課題の探究	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習の成果を活かし, 主題に関する歴史的経緯を踏まえて, 現代日本の課題を理解する。 	○	○	○
		<ol style="list-style-type: none"> 江戸時代の火山災害 地域からみた日本の戦後史 年中行事から探る伝統文化 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史の画期, 地域社会の諸相と日本や世界との歴史的な関係, それ以前の時代からの継続や変化などに着目して, 現代の日本の課題の形成に関わる歴史について, 適切な主題を設定して多面的・多角的に考察し, 構想して表現する。 これまでの自身の学習を振り返って調整するとともに, 生徒自身が主体となる社会への見通しを示す。 	○	○	○

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	公民科	学年	3 学年	単位数	3 単位
科目名	基礎社会	担当者	鶴身 幸一		
使用教材	資料を配付する				
	※参考文献 政治・経済(必修)で使用しているもの				
学習目標	<p>1 社会的事象について関心を持ち、主体的に社会を構成する一員としての自覚を養う。</p> <p>2 現代社会の諸課題を主体的に捉え、さまざまな社会問題について考察する態度を育む。</p> <p>3 日本や世界の諸地域でおきている諸問題に関心を寄せ、自分に結びつけて生き方を考える。</p> <p>4 設定した課題について適切に情報を取捨選択し、それらを分析し、自分の意見をまとめて表現する力を身に付ける。</p>				
学習方法	<p>1 自分の考えの正解・不正解を気にするのではなく、意見を形成する過程を大切にしている。</p> <p>2 個人思考も大切だが、他者の意見に触れて自分の意見を深めていく。</p> <p>3 授業のみで完結するのではなく、日頃からニュースや社会問題に関心を持ち、生活に活かしていく。</p>				
必ず取り組む最小目標	社会的事象について自分の意見を形成する力を養う。				
実現したいと思う最大目標	社会的事象について多面的・多角的に考察する態度と自らの意見をまとめ、発信する力を身に付ける。				
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	レポート プレゼンテーション ペーパーテスト	レポート プレゼンテーション ディベート	観察 グループワーク	
	A	①社会的事象について自らの意見を適切な方法で他者に伝える技能を身に付けている。 ②社会的事象について正しい知識を身に付け、その知識を活用している。 ③文献やインターネットから適切な情報を取捨選択し、収集する技能を身に付けている。	①社会的事象について、多面的・多角的に分析し、自らの意見をまとめて表現している。 ②「社会人」として適切な行動を選択する判断力を身に付けている。	①他者の意見を尊重し、受容しようとする態度を身に付けている。 ②社会的事象について主体的かつ協働的に解決に向けての方策を見出そうとしている。	
	B	①社会的事象について自らの意見を他者に伝える技能を身に付けている。 ②社会的事象について正しい知識を身に付けている。 ③文献やインターネットから情報を収集する技能を身に付けている。	①社会的事象について、多面的・多角的に分析し、自らの意見をまとめて表現している。 ②「社会人」として適切な行動を選択する判断力を身に付けている。	①他者の意見を尊重しようとする態度を身に付けている。 ②社会的事象について協働的に解決に向けての方策を見出そうとしている。	
C	①社会的事象について自らの意見を形成している。 ②社会的事象について知識を身に付けている。 ③文献やインターネットから情報を収集している。	①社会的事象について、多面的・多角的に分析し、自らの意見をまとめて表現している。 ②「社会人」として適切な行動を選択する判断力を身に付けている。	①他者の意見をきいている。 ②社会的事象について解決に向けての方策を見出そうとしている。		

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画			評価の観点			
月	週	単 元	学 習 内 容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	2	(入学式)				
	配	オリエンテーション	授業の進め方・探究活動について			○
	必	自分自身	どう生きるか・「社会人」とは・ライフストーリー 探究活動	○	○	○
5	1	(連休)				
	2	生活と社会	格差社会・子育て支援・女性の社会進出	○		○
	3		探究活動	○	○	○
	4	環境問題	地球温暖化・自然との共生	○	○	
	5		探究活動	○	○	○
6	2	(前期中間考査)				
	3	情報化社会・情報倫理	メディアの発達・情報社会の現状と問題点		○	○
	4		探究活動	○	○	○
	5	科学技術・AI社会	遺伝子工学・AI社会			
7	1		探究活動	○	○	○
	2	(学校祭)				
	3	医療・福祉	生命倫理・現代の医療・患者主体の医療	○		○
	4		探究活動	○	○	○
	5					
8	1	(夏季休業)				
	2					
	3					
	4					
9	5	超高齢社会	ノーマライゼーション・超高齢社会と社会保障	○	○	
	1		探究活動	○	○	○
	2	(前期期末考査)				
	3	地域社会	自分の住む街・地域社会の課題		○	○
	4		探究活動	○	○	○
10	5		探究活動	○	○	○
	1	国際問題	子どもの貧困・グローバル化	○		○
	2		探究活動	○	○	○
	3	異文化理解	世界の文化・世界の宗教	○	○	
	4		探究活動	○	○	○
11	5	性に関する課題	ジェンダー・セクシュアリティ・両性婚とパートナーシップ		○	○
	1		探究活動	○	○	○
	2	家族に関する課題	近代家族・家族の在り方の変容・隣近所付き合いの変化		○	○
	3		探究活動	○	○	○
	4	(後期中間考査)				
12	5	1年間のまとめ	課題設定	○	○	○
	1		情報収集	○	○	○
	2		情報収集	○	○	○
	3		整理分析	○	○	○
	4	(冬季休業)				
1	5					
	1					
	2					
	3	1年間のまとめ	整理分析	○	○	○
2	4		発表・表現	○	○	○
	5	(後期期末考査)				
	1					
	2					
	3					
3	4	(家庭学習期間)				
	1					
	2					

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	地歴公民	学年	3 学年	単位数	3 単位
科目名	地理論考	担当者	辻 眞		
使用教材	教科書 : 新詳地理探究(帝国書院) 地図帳 : 新詳高等地図 (帝国書院) 資料集 : 新詳地理資料 COMPLETE 2023(帝国書院)				
学習目標	これまで身につけた地理的認識力をもとに、さらなる地理的なものの見方や考え方を培い、主題について他者と論じる中で、主体的に判断し行動する能力を育成する。				
学習方法	<p>1 授業を大切に積極的に取り組み、重要な知識の定着に心がける。また、課題にしっかり取り組み、忘れずに提出する。</p> <p>2 暗記だけでなく、グラフを分析したり地図の読図・作図などができることが重要である。わからない地名などが出てきたときには地図帳で調べることが大切である。</p> <p>3 世界諸地域の生活・文化及び地球的課題を理解するためにも、新聞やテレビ等から積極的に情報を得ようとする姿勢が大切である。</p>				
必ず取り組む最小目標	生徒として最低限の義務を果たすことができる。(1)出席する(2)私語・居眠りをしない(3)チャイム前着席・授業の準備を忘れない(4)ノートやプリントの記入は丁寧に行う。				
実現したいと思う最大目標	地球市民として「異文化の尊重」と「国際協力の推進」のために、(1)多文化共生(2)持続可能な開発(3)人権尊重(4)公正さなどの実現をめざして積極的に関わっていこうとする態度を身につける。				
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	定期考査、課題、小テスト	定期考査、課題	学習活動状況、課題	
	A	①積極的に意見を述べ仲間と学習できている ②気がついたことがあればノート・メモを取るなど記録することができる ③ポイントを選び、自分なりにまとめをすることができる	①理解したことをもとに自分の意見を持ち、仲間にわかりやすく表現できる ②課題を解決できる	①興味や関心があることに取り組むことができる ②わからないことや気になることを調べたり、教員や仲間に聞いて解決することができる	
B	①話している人を見て、うなづくなど反応しながら話を聞いている ②黒板に書かれていることに加えて、ポイントをメモすることができる	①理解したことをもとに自分の意見を持ち、表現できる ②課題を見つけ、解決方法を見つけようとしている	①毎日、学習した内容を復習できる ②わからないことや気になることを調べたり、教員や仲間に聞いて解決しようとする		
C	①話している人を見て話を聞いている ②黒板の内容をノートに取ることができる ③提出物を期日まで提出できる	①アドバイスがあれば意見を持つことができる ②アドバイスがあれば課題をグループとともに解決することができる	①考査前は学習した内容を復習できる ②提出物を期日まで提出できるように取り組める		

年間計画			評価の観点				
月	週	単 元	学 習 内 容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
4	2	(入学式)					
	3	生活文化、民族・宗教	衣食住		○		
	4		民族・宗教と民族問題	○	○		
	5		国家の領域と領土問題	○		○	
5	1	(連休)					
	2	現代世界の諸地域	中国・韓国	○			
	3		ASEAN諸国	○			
	4		インド	○			
	5		西アジアと中央アジア	○			
6	2	(前期中間考査)					
	3		北アフリカとサハラ以南アフリカ	○			
	4		EU諸国・ロシア	○			
	5		アメリカ合衆国	○			
7	1	ラテンアメリカ・オーストラリアとニュージーランド			○		
	2	(学校祭)					
	3	持続可能な国土像の探究	将来の国土の在り方・持続可能な日本の国土像の探究		○	○	
	4	自然環境	地球環境と人間	○			
	5						
8	1	(夏季休業)					
	2						
	3						
	4						
	5		地形	○		○	
9	1		地形		○		
	2	(前期期末考査)					
	3		地形	○			
	4		気候	○		○	
	5		気候		○		
10	1		気候	○			
	2		日本の自然環境	○		○	
	3		日本の自然環境	○			
	4	資源と産業	農林水産業	○			
	5		農林水産業	○			
11	1		エネルギー・鉱産資源	○		○	
	2		エネルギー・鉱産資源		○		
	3		資源・エネルギー問題	○	○		
	4	(後期中間考査)					
	5		工業	○			
12	1		第3次産業	○			
	2	交通・通信と観光、貿易	交通・通信	○			
	3		観光	○			
	4						
	5	(冬季休業)					
1	1						
	2						
	3		貿易と経済圏	○			
	4	人口、村落・都市	人口	○			
	5	(後期期末考査)					
2	1						
	2						
	3						
	4	(家庭学習期間)					
3	1						
	2						
	3						

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	地理歴史		学年	3 学年	単位数	3 単位
科目名	日本史論考		担当者	杉村 峰行		
使用教材	高等学校 日本史探究 新視点による日本通史とアジア・世界 (清水書院)					
	図説 日本史通史 (帝国書院)					
学習目標	1 これまで身につけた歴史的認識力をもとに、さらなる歴史的なものの見方や考え方を培う。特に、世界の中の日本として、世界との関わりを意識させる。					
	2 主題について他者と論じる中でよりよい解決方法を見つけていくことにより、主体的に判断し行動する能力を育成することにつなげていく。					
学習方法	1 日本史探究の構成を、各単元・項目ごとに内容を整理して講義を中心としながら進めていく。					
	2 教科書・図説(史料集)などから、図・写真、地図、史料などを多角的に用いることにより内容を一層深める。					
	歴史的事象について、次の3つの視点から学習する。 3 1 歴史的事実を確認するだけでなく、自分なりの問い(問題意識)をもち、その答え(仮説)を考えさせる内容とする。 2 歴史を読み解くためのさまざまな視点として、因果関係を見る視点と多角的に視る視点を養わせる内容とする。 3 過去の出来事が現在にどのように影響し、どのように未来へとつながるのか。私たちにとって望ましい未来とは何かを構想することの出来る内容とする。					
必ず取り組む最小目標	生徒として最低限の義務を果たすことができる。(1)出席する (2)私語・居眠りをしない (3)チャイム前着席・授業の準備を忘れない (4)ノートやプリントの記入は丁寧に行う。					
実現したいと思う最大目標	地球市民として「異文化の尊重」と「国際協力の推進」のために、(1)多文化共生 (2)持続可能な開発 (3)人権尊重 (4)公正さなどの実現をめざして積極的に関わっていかうとする態度を身につける。					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	定期考査、課題、小テスト		定期考査、課題		学習活動状況、課題
	A	①積極的に意見を述べ仲間と学習できている ②気がついたことがあればノート・メモを取るなど記録することができる ③ポイントを選び、自分なりにまとめをすることができる		①理解したことをもとに自分の意見を持ち、仲間にわかりやすく表現できる ②課題を解決できる		①興味や関心があることに取り組むことができる ②わからないことや気になることを調べたり、教員や仲間に聞いて解決することができる
B	①話している人を見て、うなずくなど反応しながら話を聞いている ②黒板に書かれていることに加えて、ポイントをメモすることができる		①理解したことをもとに自分の意見を持ち、表現できる ②課題を見つけ、解決方法を見つけようとしている		①毎日、学習した内容を復習できる ②わからないことや気になることを調べたり、教員や仲間に聞いて解決しようとする	
C	①話している人を見て話を聞いている ②黒板の内容をノートに取ることができる ③提出物を期日まで提出できる		①アドバイスがあれば意見を持つことができる ②アドバイスがあれば課題をグループとともに解決することはできる		①考査前は学習した内容を復習できる ②提出物を期日まで提出できるように取り組める	

年間計画			評価の観点				
月	週	単元	学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	2		(入学式)				
4	3	原始・古代の日本と東アジア	2万年前の日本列島の人間の生活を学ぶ。	○		○	
	4		土器・石器・植物遺骸などがどのようなことを明らかにしてきたか考えさせる。	○		○	
	5		古代国家の形成と東アジア	中国史料を通して国家誕生を学ぶ。		○	○
	1		(連休)				
5	2	古墳文化	考古学が何を明らかにしてきたかを学ぶ。	○		○	
	3	律令体制の成立	国家体制のあり方を考えさせる。	○		○	
	4	奈良時代の政治	天皇家と藤原氏の接点を中心に政治の推移を学ぶ。		○	○	
	5	天平文化	東大寺創建を中心に最初の仏教文化を学ぶ。	○		○	
	2		(前期中間考査)	○	○		
6	3	平安遷都・摂関政治	律令体制の変質を中心に学ぶ。	○		○	
	4	平氏政権の崩壊		○		○	
	5	鎌倉幕府の誕生	京都の政権から独立した武家政権の特質を考えさせる。	○		○	
7	1	鎌倉幕府の滅亡	元寇と武士社会の関係を考えさせる。	○		○	
	2		(学校祭)				
	3	室町幕府の誕生	鎌倉の政権とは違う武家政権の誕生を学ぶ。		○	○	
	4	民衆の登場	庶民が歴史の主役として登場する様を学ぶ。	○		○	
	5						
8	1		(夏季休業)				
	2						
	3						
	4						
	5	戦国時代	日本各地に分立した戦国大名の支配を学ぶ。	○		○	
9	1	織豊政権	豊臣政権の特質について学ぶ。	○		○	
	2		(前期期末考査)	○	○		
	3	江戸幕府の誕生	全国政権として誕生した徳川政権について、鎌倉・室町幕府と比較しながら考えさせる。	○		○	
	4	江戸の産業・経済	産業・経済の発達を学ぶ。	○		○	
	5	江戸の社会	身分社会の特質を学ぶ。	○		○	
10	1	諸改革	社会変化に対応しようとする徳川政権の苦悩を学ぶ。		○	○	
	2	江戸幕府の滅亡	従来の国家体制を守ろうとした集団と新しい国家体制の樹立を目指した集団の抗争を学ぶ。	○		○	
	3				○	○	
	4		明治維新	明治政府の立憲体制、全国の統治、近代産業の育成方法を学ぶ。	○	○	○
	5	対外関係	外国との関係、西洋文化が日本に与えた影響を学ぶ。		○	○	
11	1	日清・日露戦争	対外戦争による日本の国際関係について。	○	○	○	
	2	明治文化の特色	欧米諸文化の影響による日本人の思考の変化と新たな文化の創造について学ぶ。	○		○	
	3	第一次世界大戦	世界大戦による日本への影響、国際社会関係の変化について学ぶ。	○		○	
	4		(後期中間考査)	○	○		
	5	大正デモクラシー	国際協調・国民の政治に対する意識変化と政党内閣について学ぶ。	○	○	○	
12	1	第二次世界大戦と敗戦	国際社会における経済・社会などの変化への日本の対応と対立と、太平洋戦争による日本国民への影響について考える。			○	
	2						○
	3						○
	4						
	5						
	1		(冬季休業)				
1	2						
	3		敗戦による、連合国による占領と、米ソ対立による冷戦、日本の独立と復興について考える。			○	
	4					○	
	5		(後期期末考査)	○	○		
2	1		(家庭学習期間)			○	
3	1		卒業				

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	数学	学年	3 学年	単位数	3 単位
科目名	数学Ⅲ	担当者	持田裕孝		
使用教材	数学Ⅲ Standard				
	東京書籍 WIDE Ⅲ Standard Buddy				
学習目標	1 極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。				
	2 数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。				
	3 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				
	4				
学習方法	1 授業ではテキストプリントをきちんとまとめ、プリント等の配布物をきちんと提出し、積極的に授業に取り組むように努力すること。				
	2 数学は積み重ねが大切な教科ですので、副教材などで繰り返し復習し実力を高めること。				
	3 長期休業中の課題で、それまで学習したことをしっかり復習すること。				
必ず取り組む最小目標					
実現したいと思う最大目標					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	・定期考査, 課題 ・休み明けテスト ・小テスト, 単元テスト	・定期考査 ・課題の取り組み状況	・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況	
	A	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に深く理解している。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を十分身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を十分身に付けている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、積極的に評価・改善しようとしたりしている。	
	B	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学のよさを認識し、数学を活用しようとし、数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。	
C	数学における基本的な概念や原理・法則を理解していない。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができない。	数学を活用して事象を論理的に考察することができない。事象の本質や他の事象との関係を認識できない。数学的な表現を用いることができない。	数学のよさを認識しようせず、粘り強く考えたり数学的論拠に基づいて判断したりしようしない。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようしない。		

年間計画			評価の観点				
月	週	単元	学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	2	(入学式)					
4	3	1章 関数と極限 1節 関数	関数 $y=(ax+b)/(cx+d)$ のグラフをかきことができる。また、分数関数のグラフの特徴を理解する。	○	○	○	
	4		無理関数 $y=\sqrt{ax+b}$ のグラフをかきことができる。また、無理関数のグラフの特徴を理解する。	○	○	○	
	5	2節 数列の極限 1数列の極限	数列の収束、発散と数列の極限の基本的な性質について理解し、数列の極限を求めることができる。	○	○	○	
	1	(連休)					
5	2	2無限等比数列	無限等比数列が収束する条件を理解し、そのことを用いて数列の極限を調べることができる。	○	○	○	
	3	3無限級数	無限級数について理解し、その収束、発散を調べたり、無限級数が収束するとき、その和を求めたりすることができる。	○	○	○	
	4						
	5	3節 関数の極限 1いろいろな関数と極限	指数関数、対数関数、三角関数などの極限を調べることができる。	○	○	○	
	2	(前期中間考査)					
6	3						
	4	2関数の連続性	関数の連続性及び中間値の定理について理解し、ある区間における実数解の存在を証明することができる。	○	○	○	
	5						
	1	2章 微分 1導関数	導関数の定義にしたがって、基本的な関数の導関数を求めることができる。	○	○	○	
	2	(学校祭)					
7	3	2 積・商の微分法	積・商の導関数について理解し、それらを用いていろいろな関数の導関数を求めることができる。	○	○	○	
	4	3合成関数の微分法	合成関数の微分法及び逆関数の微分法について理解し、それらを用いていろいろな関数の導関数を求めることができる。	○	○	○	
	5						
8	1	(夏季休業)					
	2						
	3						
	4						
	5	2節いろいろな関数の導関数	三角関数の導関数について理解し、合成関数の微分法を用いて、三角関数を含む関数の導関数を求めることができる。				
	1	1三角関数の導関数		○	○		
	2	(前期期末考査)					
9	3	2対数関数指数関数の導関数	自然対数の底eを導入し、対数関数の導関数を理解する。また、対数微分法を理解し、それを用いて、指数関数の導関数を求めることができる。	○	○	○	
	4	3章 微分の応用 1節関数の増減	曲線の接線の方程式及び法線の方程式を求めることができる。	○	○	○	
	5	1接線の方程式2関数の増減	平均値の定理について理解し、平均値の定理に基づいて関数の増減に関する性質を証明することができる。	○	○	○	
	1	2節微分のいろいろな応用 1最大最小	微分法を用いて、関数の最大値・最小値を求めることができる。	○	○	○	
	2	2方程式不等式への応用	微分法や平均値の定理を用いて、不等式を証明することができる。	○	○	○	
10	3	4章 積分とその応用1節 不定積分	不定積分の基本的な性質や公式を理解し、基本的な関数の不定積分を求めることができる。	○	○	○	
	4	1不定積分 2置換積分法	置換積分法について理解する。また、この方法により不定積分を求めることができる。	○	○	○	
	5	3部分積分法	部分積分法について理解する。また、この方法により不定積分を求めることができる。	○	○	○	
	1	2節 定積分 1定積分	いろいろな関数の定積分の値を求めることができる。	○	○	○	
	2	2定積分の置換積分と部分積分	置換積分法や部分積分法を用いて、定積分の値を求めることができる。	○	○	○	
11	3	3 定積分で表された関数	積分と微分の関係 $d/dx \int_a^x f(t) dt=f(x)$ を理解する。	○	○	○	
	4	(後期中間考査)					
	5	3節 面積・体積・長さ 1面積	いろいろな曲線で囲まれた図形の面積の求め方を理解する。また、その値を求めることができる。	○	○	○	
12	1	共通テスト対策					
	2	〃					
	3	〃					
	4						
	5	(冬季休業)					
1	1						
	2						
	3	〃					
	4	〃					
	5	(後期期末考査)					
2	1						
	2						
	3						
	4	(家庭学習期間)					
3	1						
	2						
	3						

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	数学	学年	3 学年	単位数	3 単位
科目名	数学研究Ⅱ	担当者	石黒雄佑		
使用教材	リンク数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B・C〔ベクトル〕 受験編(a+b+c+d)				
	プリント教材				
学習目標	1 既習分野の数学Ⅱ・数学B・数学Cの復習をすることで、数学的な考え方の必要性を理解する。				
	2 生徒自らが解答を説明することで、知識と技能を習得させる。				
	3				
	4				
学習方法	1 「生徒自ら問題を解く」ことを重視し、それを発表することで、お互いの理解度を高めていく。				
	2 プリント学習や課題・宿題を通して、自ら学習する積極的な態度が必要となる。				
	3				
必ず取り組む最小目標	数学的な活動を通して、数学のよさを認識できるようにする。				
実現したいと思う最大目標	数学的な活動を通して、事象を数学的・論理的に考察し、それらを活用できるようにする。				
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	・定期考査, 課題	・定期考査 ・課題の取り組み状況	・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況 ・学習成果の発表内容	
	A	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に深く理解している。事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を十分身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力, 事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を十分身に付けている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり, 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。学習成果の発表などを通して考察を深めたり, 積極的に評価・改善しようとしている。	
	B	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力, 事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学のよさを認識し, 数学を活用しようとしたり, 数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。学習成果の発表などを通して考察を深めたり, 評価・改善しようとしている。	
C	数学における基本的な概念や原理・法則を理解していない。事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりすることができない。	数学を活用して事象を論理的に考察することができない。事象の本質や他の事象との関係を認識することができない。数学的な表現を用いることができない。	数学のよさを認識しようとしてせず, 粘り強く考えたり数学的論拠に基づいて判断したりしようとしていない。学習成果の発表をしたり, 評価・改善しようとしていない。		

年間計画			評価の観点		
月	週	単元 学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	2	(入学式)			
4	3	微分法と積分法(a,b,c問題) 導関数、接線の方程式	○		○
	4	" 関数の増減、極値(関数の係数決定)	○	○	○
	5	" 関数の最大・最小(図形も含む)	○	○	
	1	(連休)			
5	2	" 方程式、不等式への応用(実数解の個数)	○	○	○
	3	" 不定積分、定積分(定積分を含む等式)	○	○	
	4	" 定積分と微分法	○	○	
	5	" 面積	○	○	○
	1	(前期中間考査)			
6	2	三角関数(a,b,c問題) 一般角と弧度法	○		○
	3	" 三角関数の応用(三角方程式、不等式)	○	○	
	4	" 加法定理		○	○
	1	" 加法定理の応用(最大・最小)	○	○	○
7	2	(学校祭)			
	3	" "	○	○	○
	4	指数関数と対数関数(a,b,c問題) 指数の拡張	○		○
	5				
8	1	(夏季休業)			
	2				
	3				
	4				
	5	" 対数とその性質	○	○	
	1	" 指数関数・対数関数の最大・最小	○	○	○
9	2	(前期期末考査)			
	3	" 桁数・小数首位	○	○	○
	4	" 指数関数と対数関数の応用	○	○	○
	5	数列(a,b,c問題) 等差数列、等比数列	○		○
	1	" いろいろな数列(数列の和)		○	○
10	2	" 漸化式	○	○	○
	3	" 数学的帰納法		○	○
	4	" 群数列	○	○	○
	5	統計的な推測(a,b,c問題) 確率変数の期待値、分散、二項分布、正規分布(連続型確率変数)	○	○	○
	1	" 標本平均、推定、仮説検定(母比率の推定)	○	○	○
11	2	ベクトル(a,b,c問題) ベクトルの基本	○		○
	3	" 内積		○	○
	4	(後期中間考査)			
	5	" 位置ベクトル		○	○
	1	" ベクトルの応用	○	○	○
12	2	総合問題演習 共通テスト模擬試験・解答	○	○	○
	3	" 共通テスト模擬試験・解答	○	○	○
	4				
	5	(冬季休業)			
1	1				
	2				
	3	" 共通テスト模擬試験・解答	○	○	○
	4	" 共通テスト模擬試験・解答	○	○	○
	5	(後期期末考査)			
2	1				
	2				
	3				
	4	(家庭学習期間)			
3	1				
	2				
	3				

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	数学	学年	3 学年	単位数	3 単位
科目名	実用数学	担当者	中村 一彦		
使用教材	高校生のSPI問題集				
	SPI対策ドリル				
	補足用プリント教材				
学習目標	1 数学の合理的な考え方について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。				
	2 既習分野の算数・数学の復習をすることで、数学的な考え方の妥当性や必要性を理解する。				
	3 生徒が不得意とする、文章問題や応用問題等をはじめ、基礎的な数学の知識と技能を修得させる。				
	4				
学習方法	1 数や式に関する基礎的な計算演習をする。また、既習分野の数学 I・数学Aの復習をする。				
	2 「生徒自らが考え、問題を解ける」ことを重視し、それを共有することで、互いの理解度を高めていく。				
	3 プリント学習や課題・宿題を通して、自ら学習する積極的に学ぶ。 ※また、ノート類は各自で用意する。				
必ず取り組む最小目標	数学的な活動を通して、数学のよさを認識できるようにする。				
実現したいと思う最大目標	数学的な活動を通して、事象を数学的・論理的に考察し、それらを活用できるようにする。				
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。 ※定期考査に準ずる単元テスト等を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	・定期考査, 課題 ・小テスト, 単元テスト	・定期考査 ・課題の取り組み状況	・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況	
	A	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に深く理解している。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を十分身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を十分身に付けている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、積極的に評価・改善しようとしたりしている。	
	B	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学のよさを認識し、数学を活用しようとしたり、数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。	
C	数学における基本的な概念や原理・法則を理解していない。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができない。	数学を活用して事象を論理的に考察することができない。事象の本質や他の事象との関係を認識することができない。数学的な表現を用いることができない。	数学のよさを認識しようせず、粘り強く考えたり数学的論拠に基づいて判断したりしようしない。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようしない。		

年間計画			評価の観点				
月	週	単元	学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	2	年度始め					
4	3	SPI対策<非言語問題>	値段と利益、代金の支払い、速さ、電車の通過	○	○		
	4		川の上の船の速さ、仕事と水槽の計算、濃度の計算、年齢の計算	○	○		
	1	GW					
5	2		植木の本数、鶴亀算、関数とグラフ、グラフと範囲	○	○		
	3		図表の味方、ブラックボックス、数列、場合の数	○	○		
	4		確率、集合、推理、命題	○	○		
	5		SPI総合問題演習		○	○	
	2	(前期中間考査)					
6	3	基礎数学トレーニング	数の計算、比率と割合、比例と反比例、文字式	○	○		
	4	四則計算	整式の四則演算、指数法則	○	○		
	5	展開と因数分解	2次式の展開公式、因数分解	○	○		
	6	基礎的な計算	無理数の計算、有理化、対称式	○	○		
	2	学校祭					
7	3	方程式	1次方程式、連立方程式、絶対値を含む方程式	○	○		
	4	方程式	2次方程式の解法、判別式	○	○		
	5	不等式	1次不等式、連立不等式	○	○	○	
	6						
8	1	(夏季休業)					
	2						
	3						
	4						
	5	1次関数とグラフ	直線の方程式、2直線の交点	○	○		
	1	(前期期末考査)					
9	2	2次関数とグラフ	放物線の式、軸の方程式、頂点の座標	○	○		
	3	2次関数とグラフ	放物線と直線の交点	○	○		
	4	図形と角・合同な図形・平行線と線分の比	角の性質、三角形の合同条件、直角三角形の合同条件、平行線と線分の比	○	○		
	5	図形の面積・体積	三角形の面積、平行四辺形の面積、台形の面積、立体の表面積・体積	○	○		
10	1	三角比	三角比の定義・相互関係	○	○		
	2	三角比	正弦定理、余弦定理、三角形の面積	○	○		
	3	集合と要素・命題と証明	集合の記号、命題の真偽、必要条件、十分条件、必要十分条件	○	○		
	4	場合の数と確率	和の法則と積の法則、順列・組合せ	○	○		
	5	表の読み取り・資料の整理	平均値、中央値、最頻値、表の読み取り	○	○		
11	1	さまざまな問題①	距離、速さ、時間の関係・濃度計算		○	○	
	2	さまざまな問題②	不等式と領域・数列・対数		○	○	
	3	問題演習	総合復習問題		○	○	
	4	(後期中間考査)					
12	1	問題演習	総合復習問題			○	
	2	問題演習	総合復習問題			○	
	3	問題演習	総合復習問題			○	
	4						
	5	(冬季休業)					
1	1						
	2						
	3	問題演習	総合復習問題			○	
	4	(学年末考査3学年)					
	5	(後期期末考査)					
2	1						
	2						
	3						
	4						
	1	(家庭学習期間)					
3	1						
	2						
	3						

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	数学		学年	3 学年	単位数	3 単位
科目名	数学C		担当者	持田裕孝		
使用教材	数学C Standard					
	東京書籍 WIDE C Standard Buddy					
学習目標	1 ベクトルと複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。					
	2 大きさや向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。					
	3 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。					
	4					
学習方法	1 授業ではテキストプリントをきちんとまとめ、プリント等の配布物をきちんと提出し、積極的に授業に取り組むように努力すること。					
	2 数学は積み重ねが大切な教科ですので、副教材などで繰り返し復習し実力を高めること。					
	3 長期休業中の課題で、それまで学習したことをしっかり復習すること。					
必ず取り組む最小目標						
実現したいと思う最大目標						
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	・定期考査, 課題 ・休み明けテスト ・小テスト, 単元テスト		・定期考査 ・課題の取り組み状況		・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況 ・自発的なノート提出
	A	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に深く理解している。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を十分身に付けている。		数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を十分身に付けている。		数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、積極的に評価・改善しようとしたりしている。
	B	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。		数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。		数学のよさを認識し、数学を活用しようとしたり、数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。
C	数学における基本的な概念や原理・法則を理解していない。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができない。		数学を活用して事象を論理的に考察することができない。事象の本質や他の事象との関係を認識することができない。		数学のよさを認識しようとして、粘り強く考えたり数学的論拠に基づいて判断したりしようとしていない。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしていない。	

年間計画			評価の観点			
月	週	単元 学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度	
	2	(入学式)				
4	3	1章 ベクトル 1節 平面上のベクトル	平面上のベクトルを図示する活動などを通して、ベクトルの意味、相等、和、差、実数倍、ベクトルの平行及び単位ベクトルについて理解する。	○	○	○
	4	2ベクトルの分解	具体的な図形における考察を通して、ベクトルの分解とその一意性について理解する。	○	○	○
	5	3ベクトルの成分	平面上のベクトルが2つの実数の組で成分表示されることを平面上の点の座標と関連付けて理解する。また、成分表示を利用してベクトルの大きさを求めることや、条件を満たす単位ベクトルを成分表示することができる。	○	○	○
	1	(連休)				
5	2	4ベクトルの内積	2つのベクトルのなす角や成分表示に関連付けて、ベクトルの内積の意味やその基本的な性質について理解する。	○	○	○
	3	2節ベクトルの応用1位置ベクトル		○	○	○
	4	1位置ベクトル	平面上の点の位置ベクトルについて理解し、ベクトルの演算や成分表示、内積の基本的な性質などを用いて、平面図形の性質を見いだしたり、多面的に考察したりすることができる。	○	○	○
	5	2ベクトル方程式	ベクトルの演算や内積の基本的な性質及び位置ベクトルの考え方をを用いて、平面上の直線や円をベクトル方程式で表現する方法について考察する。	○	○	○
	2	(前期中間考査)				
6	3	3節 空間におけるベクトル		○	○	○
	4	1空間のベクトル	空間におけるベクトルの定義や平行条件、ベクトルの分解とその一意性について、平面上のベクトルの考えを空間に拡張できることを理解する。	○	○	○
	5	2 空間座標と空間のベクトル	空間座標の概念及びその意味や表し方を理解し、それらを用いて空間におけるベクトル	○	○	○
7	1	3 空間のベクトルの内積	平面上のベクトルの内積の考えを空間に拡張して空間のベクトルの内積について理解する。	○	○	○
	2	(学校祭)				
	3	4 位置ベクトルと空間の図形	平面における位置ベクトルの考えを拡張して空間における位置ベクトルについて理解する。	○	○	○
	4					
	5					
8	1	(夏季休業)				
	2					
	3					
	4					
	5	3章 複素数平面1節複素数平面				
9	1	1複素数平面	複素数平面上の点が複素数を表していることを理解する。また、複素数の実数倍や、和と差が複素数平面上でどのように表されるかを理解する。	○	○	○
	2	(前期期末考査)				
	3	2 複素数の極形式	複素数の極形式を理解し、 $a+bi$ の形の複素数を極形式で表すことができる。	○	○	○
	4	3 ド・モアブルの定理	ド・モアブルの定理について理解する。また、ド・モアブルの定理を用いて $z^n=a$ の解を求めることができる。さらに、その解を複素数平面上に図示することができる。	○	○	○
	5	2節 図形への応用		○	○	○
10	1	1 2直線のなす角	偏角を用いることにより、複素数平面上の2直線がなす角の大きさが求められることを理解する。	○	○	○
	2	2 複素数平面上の図形	内分点や外分点、円、軌跡を、複素数を用いて表現することができる。	○	○	○
	3	共通テスト対策			○	○
	4	〃			○	○
	5	〃			○	○
11	1	〃			○	○
	2	〃			○	○
	3	〃			○	○
	4	(後期中間考査)				
	5	〃			○	○
12	1	〃			○	○
	2	〃			○	○
	3	〃			○	○
	4	(冬季休業)				
	5					
1	1					
	2					
	3	〃			○	○
	4	〃			○	○
	5	(後期期末考査)				
2	1					
	2					
	3					
	4	(家庭学習期間)				
3	1					
	2					
	3					

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	数 学	学年	3 学年	単位数	3 単位
科目名	数学研究 I (選択3)	担当者	中村 一彦・高松 朋亮		
使用教材	2026 短期集中ゼミ 看護・医療系のための数学 I + A				
	※ 数学 I Standard (東京書籍)、数学A Standard (東京書籍)及び問題集WIDE ※ 必要に応じて、入試過去問、模試問題過去問、その他補充教材等				
学習目標	1 既習分野の数学 I・Aの復習をすることで、数学的な考え方の必要性を理解する。				
	2 過去の看護学校の入試問題等の問題演習や新傾向問題を通して、知識や技能を修得させる。				
学習方法	1 授業ではノートをまとめ、プリント等の配布物を提出し、積極的に授業に取り組むよう努力すること。				
	2 数学は基礎基本の積み重ねが大切な教科である。宿題＋小テストに毎回取り組み、副教材などで繰り返し復習し実力を高めていくこと。				
	3 使用テキスト以外に補充教材等を活用し、一般入試に対応できる学力を身につける。 ※また、ノート類は各自で用意する。				
必ず取り組む最小目標	数学的な活動を通して、数学の良さを認識できるようにする。				
実現したいと思う最大目標	数学的な活動を通して、事象を数学的・論理的に考察し、それらを活用できるようにする。				
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	・定期考査, 課題 ・小テスト, 単元テスト	・定期考査 ・課題の取り組み状況	・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況	
	A	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に深く理解している。事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を十分身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力, 事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を十分身に付けている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとして, 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 積極的に評価・改善しようとしてしている。	
	B	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力, 事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学のよさを認識し, 数学を活用しようとして, 数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善しようとしてしている。	
C	数学における基本的な概念や原理・法則を理解していない。事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりすることができない。	数学を活用して事象を論理的に考察することができない。事象の本質や他の事象との関係を認識できない。数学的な表現を用いることができない。	数学のよさを認識しようとして, 粘り強く考えたり数学的論拠に基づいて判断したりしようとしていない。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善しようとしていない。		

年間計画			評価の観点			
月	週	単元	学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	1	(春休み)				
4	2	数と式	展開、式の計算、因数分解	○		
	3	〃	無理数、対称式、二重根号、整数部分と小数部分、絶対値記号	○		
	4	2次関数	グラフの移動、最大・最小、2次関数の決定、		○	○
	1	(連休)				
5	2	2次関数	2次方程式、判別式	○	○	
	3	〃	1次不等式、2次不等式、連立不等式		○	
	4	〃	グラフとx軸との交点、絶対値を含む方程式・不等式		○	
	5	復習	前期中間考査に向けての復習		○	○
	1	(前期中間考査)				
6	2	図形と計量	三角比の定義、拡張、相互関係	○	○	
	3	〃	三角方程式・不等式、正弦定理、余弦定理		○	
	4	〃	面積、円に内接する四角形、空間図形		○	
	1	(学校祭)				
7	2	集合と論理	集合の要素、要素の個数、「かつ」と「または」、必要条件と十分条件	○		
	3	データの分析	度数分布と代表値、箱ひげ図、平均値・分散と標準偏差、相関係数		○	
	4					
	1	(夏季休業)				
8	2					
	3					
	4	場合の数	和の法則・積の法則、順列、円順列	○	○	
	5	復習	前期期末考査に向けての復習			○
	1	(前期期末考査)				
9	2	場合の数	重複順列、同じものを含む順列、組合せ	○		
	3	〃	組の区別のつかない組分け、組合せの図形への応用		○	
	4	確率	確率の考え方、加法定理、順列と確率、組合せと確率		○	
	1	〃	続けて起こる場合の確率、余事象、反復試行、条件付き確率		○	
10	2	整数の性質	素因数分解と約数、最大公約数・最小公倍数、互除法	○		
	3	〃	不定方程式の解、不定方程式の整数解、p進法		○	
	4	図形の性質	円周角、接弦定理、円に内接する四角形、内心と外心	○		
	5	〃	角の2等分線と対辺の比、方べきの定理、円と接線、2円の関係	○		
	1	総合演習	入試問題等の応用問題を通して、実践力を身につける。		○	○
11	2	〃	〃		○	○
	3	復習	後期中間考査に向けての復習			○
	4	(後期中間考査)				
	1	総合演習	入試問題等の応用問題を通して、実践力を身につける。			○
12	2	〃	〃			○
	3	〃	〃			○
	4					
	1	(冬季休業)				
1	2					
	3	〃	〃			
	4	復習	後期期末考査に向けての復習			○
	5	(後期期末考査)				
	1					
2	2					
	3					
	4					
	1					
3	2					
	3					

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	理科	学年	3 学年	単位数	4 単位
科目名	生物	担当者	森 秀夫		
使用教材	生物(実教出版) アクセスノート生物(実教出版) ※Libry版を購入 サイエンスビュー生物(実況出版)				
学習目標	1 生物や生物現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高め、生物学的に探求する能力と態度を育てる。 2 生物や生物現象についての基本的な概念や原理・原則を理解し、科学的な自然観を育成する。 3 自然に対する総合的な見方を養う。				
学習方法	1 授業に集中し、板書を書き写すのみならず、説明をよく聞き、内容を理解する。 2 小テストや定期考査に向けて、家庭学習に取り組み、基礎知識を固める。 3 問題集などでの復習に努め、より多様な観点から、生物の成り立ちや制御のしくみ、行動等を理解する。				
必ず取り組む最小目標					
実現したいと思う最大目標					
評価の方法及び評価基準ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	小テスト 定期考査 実験	定期考査 課題プリント	ノート・プリント ペアワーク・グループワーク	
	A	生物や生物現象について、これらの基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観や、自然界のさまざまな事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養を身につけているとともに、生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、観察・実験の技能を習得している。	生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえることができ、生物現象について探究する場合には、それらを個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的にとらえ、表現することができる。	生物や生物現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や生物学的に探究する能力と態度を身につけようとする。	
B	生物や生物現象について、これらの基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観や、自然界のさまざまな事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養を概ね身につけているとともに、生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、観察・実験の技能を概ね習得している。	生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえることが概ねでき、生物現象について探究する場合には、それらを個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的にとらえ、表現することが概ねできる。	生物や生物現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や生物学的に探究する能力と態度を身につけようとして概ねしている。		
C	生物や生物現象について、これらの基本的な概念や原理・法則の理解がなく、科学的な自然観や、自然界のさまざまな事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養が身につけておらず、生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、観察・実験の技能も習得していない。	生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえることができず、生物現象について探究する場合には、それらを個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的にとらえ、表現することもできない。	生物や生物現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や生物学的に探究する能力と態度を身につけようとしていない。		

年間計画			評価の観点				
月	週	単元	学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	2	(入学式)					
	3	オリエンテーション・生物の進化	生命の起源と細胞の進化	○			
	4	生物の進化	生命の起源と細胞の進化	○			
	5	生物の進化	遺伝子の変化と進化のしくみ		○		
	1	(連休)					
	2	生物の進化	生物の系統と進化	○			
	3	生物の進化	生物の系統と進化	○			
	4	生物の進化	生物の系統と進化	○	○		
	5	生物の進化	生物の系統と進化	○		○	
	1	生物の進化	生物の系統と進化	○			
	2	(前期中間考査)					
	3	生物現象と物質	細胞と分子	○			
	4	生物現象と物質	細胞と分子		○		
	5	生物現象と物質	生命現象とタンパク質	○			
	1	生物現象と物質	生命現象とタンパク質	○			
	2	(学校祭)					
	3	生物現象と物質	代謝			○	
	4	生物現象と物質	代謝	○			
	5						
	1	(夏季休業)					
	2						
	3						
	4						
	5	遺伝情報の発現と発生	遺伝情報とその発現	○			
	1	遺伝情報の発現と発生	遺伝情報とその発現	○			
	2	(前期期末考査)					
	3	遺伝情報の発現と発生	遺伝情報とその発現		○		
	4	遺伝情報の発現と発生	遺伝情報とその発現		○		
	5	遺伝情報の発現と発生	遺伝情報とその発現		○		
	1	遺伝情報の発現と発生	発生と遺伝子発現	○			
	2	遺伝情報の発現と発生	発生と遺伝子発現	○			
	3	遺伝情報の発現と発生	発生と遺伝子発現	○			
	4	遺伝情報の発現と発生	発生と遺伝子発現	○			
	1	遺伝情報の発現と発生	遺伝子を扱う技術		○	○	
	2	遺伝情報の発現と発生	遺伝子を扱う技術	○			
	3	(後期中間考査)					
	4	生物の環境応答	動物の反応	○			
	1	生物の環境応答	動物の反応	○			
	2	生物の環境応答	動物の反応	○			
	3	生物の環境応答	動物の反応	○	○		
	4	生物の環境応答	動物の反応	○	○		
	5	(冬季休業)					
	2						
	3	生物の環境応答	植物の成長と環境応答			○	
	4	生物の環境応答	植物の成長と環境応答	○	○	○	
	5	生物の環境応答	植物の成長と環境応答	○			
	1						
	2						
	3						
	4						
	1	(家庭学習期間)					
	2						
	3						

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	理 科		学年	3 学年	単位数	4 単位
科目名	物理		担当者	若原 正人		
使用教材	数研出版『物理』 リードLightノート 物理 (数研出版)					
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 物理的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理学的に探究する能力と態度を育てる。 2 基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。 					
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業前に教科書を読み、重要語句・中学校での既習事項を確認する。 2 授業では、板書を写すことにとどまらず、計算過程や式の変形の過程を自分自身で繰り返し、理解を深める。 3 問題集を解き、理解度を確認する。小テストごとに復習する。復習なくして、知識や問題を解く力の定着は見込めない。プリントの発展的な問題にも積極的に取り組もう。 					
必ず取り組む最小目標	<ul style="list-style-type: none"> ・問題から物理量を抜き出すことができる。 ・適用する公式を見つけて使うことができる。 					
実現したいと思う最大目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自然現象から物理量を設定することができる。 ・自然の中に潜む物理法則を見い出すことができる。 					
評価の方法及び評価基準ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	単元テスト 問題演習		単元テスト 問題演習		ペアワーク・グループワーク リフレクション演習
	A	物理や物理現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観や、自然界のさまざまな事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養を身につけているとともに、物理学的な方法で物理や物理現象に関する問題を取り扱い、観察・実験の技能を習得している。		物理学的な方法で物理や物理現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえることができ、物理現象について探究する場合に、それらを個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的にとらえ、表現することができる。		物理や物理現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や物理学的に探究する能力と態度を身につけようとする。
B	物理や物理現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観や、自然界のさまざまな事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養を概ね身につけているとともに、物理学的な方法で物理や物理現象に関する問題を取り扱い、観察・実験の技能を概ね習得している。		物理学的な方法で物理や物理現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえることが概ねでき、物理現象について探究する場合に、それらを個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的にとらえ、表現することが概ねできる。		物理や物理現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や物理学的に探究する能力と態度を身につけようとして概ねしている。	
C	物理や物理現象について、それらの基本的な概念や原理・法則の理解がなく、科学的な自然観や、自然界のさまざまな事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養が身につけておらず、物理学的な方法で物理や物理現象に関する問題を取り扱い、観察・実験の技能も習得していない。		物理学的な方法で物理や物理現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえることができず、物理現象について探究する場合に、それらを個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的にとらえ、表現することもできない。		物理や物理現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や物理学的に探究する能力と態度を身につけようとしていない。	

年間計画				評価の観点			
月	週	単 元	学 習 内 容	知 識・技 能	思 考・判 断・表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	
	2	(入学式)					
4	3	第1章 平面内の運動	1. 平面運動の速度・加速度	○			
	4		2. 落体の運動		○		
	5	第2章 剛体	1. 剛体にはたらく力のつりあい	○			
	1	(連休)					
5	2	第2章 剛体	2. 剛体にはたらく力の合力と重心		○		
	3	第3章 運動量の保存	1. 運動量と力積	○			
	4		2. 運動量保存則		○		
	5		3. 反発係数				○
	1	(前期中間考査)					
6	2	第4章 円運動と万有引力	1. 等速円運動	○			
	3		2. 慣性力		○		
	4		3. 単振動		○		
	5		4. 万有引力		○		
	1	(学校祭)					
7	2	第1章 気体のエネルギーと状態変化	1. 気体の法則		○		
	3		2. 気体分子の運動		○		
	4						
	5						
8	1	(夏季休業)					
	2						
	3						
	4						
	5	第1章 気体のエネルギーと状態変化	3. 気体の状態変化	○			
	1	第1章 波の伝わり方	1. 波と媒質の運動	○			
	2	(前期期末考査)					
9	3	第1章 波の伝わり方	2. 正弦波の式	○			
	4		3. 波の伝わり方		○		
	5	第2章 音の伝わり方	1. 音の伝わり方		○		
	1	第3章 光	2. 音のドップラー効果		○		
10	2		1. 光の性質	○			
	3		2. レンズと鏡		○		
	4		3. 光の干渉と回折		○		
	5		1. 静電気力		○		
	1	第1章 電場	2. 電場		○		
11	2		3. 電位		○		
	3		4. 物質と電場		○		
	4		(後期中間考査)				
	5	第1章 電場	5. コンデンサー		○		
	1	第2章 電流	1. オームの法則	○			
12	2		2. 直流回路		○		
	3		3. 半導体				○
	4						
	5	(冬季休業)					
	1						
1	2						
	3	総合問題演習					
	4						
	5	(後期期末考査)					
2	1						
	2						
	3						
	4						
	1	(家庭学習期間)					
3	2						
	3						

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	理科	学年	3 学年	単位数	3 単位
科目名	化学研究	担当者	永木 正彦		
使用教材	高等学校 化学(第一学習社)				
	セミナーノート 化学(第一学習社)				
学習目標	1 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。				
	2 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。				
	3 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。				
	4				
学習方法	1 授業前に教科書を読み、重要語句・中学校や前年度の授業での既習事項を確認する。				
	2 授業では、板書を写すことにとどまらず、計算過程や式の変形の過程を自分自身で繰り返し、理解を深める。				
	3 問題集を解き、理解度を確認する。小テストごとに復習する。復習なくして、知識や問題を解く力の定着は見込めない。プリントの発展的な問題にも積極的に取り組もう。				
必ず取り組む最小目標					
実現したいと思う最大目標					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	・単元テスト ・課題の取り組み状況 ・実験の取り組み状況	・単元テスト ・課題の取り組み状況 ・実験の取り組み状況	・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況	
	A	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究している。	
	B	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解している。あるいは、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている	自然の事物・現象から問題を見だしている。または、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	自然の事物・現象に主体的に関わっている。あるいは、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
C	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解していない。科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けていない。	自然の事物・現象から問題を見いだせない。見通しをもって観察、実験などを行っていない。得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究していない。	自然の事物・現象に主体的に関わっていない。見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしていない。		

年間計画			評価の観点		
月	週	単元 学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	2	(入学式)			
4	3	第2節 非金属元素 ③ハロゲン ④16族	○	○	
	4	⑤15族	○	○	
	5	⑥14族	○	○	
	1	(連休)			
5	2	第3節 典型金属元素 ①アルカリ金属	○	○	
	3	単元テスト(1)非金属元素			
	4	②アルカリ土類金属	○		
6	5	第4節 遷移元素 ①遷移元素	○	○	
	2	②鉄 ③銅	○	○	
	3	④銀～⑥クロム	○	○	
	4	単元テスト(2)金属元素			
	5	⑦金属イオンの定性分析	○	○	
	1	(学校祭)			
7	2	第1節 有機化合物の特徴 ①特徴と分類	○		
	3	②構造式の決定	○	○	
	4	第2節 脂肪族炭化水素 ①飽和炭化水素	○	○	
8	1	(夏季休業)			
	2				
	3				
	4				
	5	続き	○		
9	1	②不飽和炭化水素	○		
	2	続き	○		
	3	第3節 酸素を含む脂肪族 ①アルコールとエーテル	○		
	4	単元テスト(3)有機化合物(特徴～炭化水素)			
	5	続き	○		
10	1	②アルデヒドとケトン	○		
	2	③カルボン酸とエステル	○		
	3	続き	○		
	4	④油脂とセッケン	○	○	○
	5	単元テスト(4)(酸素を含む有機化合物)			
11	1	第4節 芳香族化合物 ①芳香族炭化水素	○		
	2	②酸素を含む芳香族化合物	○		
	3	③窒素を含む芳香族化合物	○		
	4	④芳香族化合物の分離	○		
	5	第2節 天然高分子化合物 ①単糖・二糖 ②多糖	○		○
12	1	③アミノ酸 ④タンパク質 ⑤核酸	○		○
	2	単元テスト(5)(芳香族化合物・天然高分子)			
	3	第3節 合成高分子化合物 ①合成高分子化合物の特徴 ②合成繊維③合成樹脂	○		
	4	④機能性高分子化合物 ⑤ゴム	○		
	5	(冬季休業)			
1	3	演習・実験	○	○	○
	4	演習・実験	○	○	○
	5				
2	1	(家庭学習期間)			
	2				
	3				
	4				
3	1				
	2				
	3				

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	理科	学年	3 学年	単位数	3 単位
科目名	生物研究	担当者	高橋 玲美		
使用教材	リードLightノート生物基礎 (数研出版)				
	生物(実教出版)、アクセスノート生物(実教出版) ※2年で使っていたもの				
	サイエンスビュー生物(実教出版)				
学習目標	1 生物や生物現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高め、生物学的に探求する能力と態度を育てる。				
	2 生物や生物現象についての基本的な概念や原理・原則を理解し、科学的な自然観を育成する。				
	3 自然に対する総合的な見方を養う。				
	4				
学習方法	1 身近な自然現象や日常生活に結びつけて学習を進めるよう意識すること。				
	2 復習では、授業で学習した内容について教科書・ノートの見直しを行うとともに問題集(副教材)を使って問題演習を行うこと。				
	3 ノート・実験レポートは板書を写すだけではなく、大切な内容や授業後に自分で調べた発展的な内容を書き加えるなど、後で見直してもよくわかるような工夫をすること。				
必ず取り組む最小目標					
実現したいと思う最大目標					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	・定期考査, 課題 ・休み明けテスト ・小テスト, 単元テスト	・定期考査 ・課題の取り組み状況	・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況	
	A	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究している。	
B	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解している。あるいは、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている	自然の事物・現象から問題を見だしている。または、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	自然の事物・現象に主体的に関わっている。あるいは、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。		
C	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解していない。科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けていない。	自然の事物・現象から問題を見いだせない。見通しをもって観察、実験などを行っていない。得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究していない。	自然の事物・現象に主体的に関わっていない。見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしていない。		

年間計画			評価の観点				
月	週	単元	学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	2	(入学式)					
4	3	細胞と個体の成り立ち	マイクロメーターの使い方、細胞分画法、細胞小器官、計算問題演習	○	○		
	4	細胞膜と物質の出入り	浸透圧、問題演習		○		
	5	細胞のはたらきと酵素	酵素の性質、考察問題の研究	○	○	○	
	1	(連休)					
5	2	個体の成り立ち	組織と器官、問題演習	○			
	3	異化	好気呼吸と嫌気呼吸、計算問題演習		○	○	
	4	同化	光合成、化学合成、窒素同化、計算問題演習	○	○		
	5	遺伝情報とその発現	DNAと遺伝情報	○			
	2	(前期中間考査)					
6	3	遺伝の法則	計算問題演習		○	○	
	4	染色体と遺伝	計算問題演習	○	○		
	5	遺伝子の本体	DNA、問題演習	○	○		
	1	内部環境としての体液	酸素解離曲線、血液凝固、問題演習				
	2	(学校祭)					
7	3	体液の恒常性	肝臓、腎臓、計算問題演習	○		○	
	4	自律神経系とホルモン①	自律神経、ホルモン、考察問題	○	○		
	5						
8	1						
	2	(夏季休業)					
	3						
	4						
	5	自律神経系とホルモン②	自律神経とホルモンの協調、考察問題		○	○	
	1	生物の集団	個体群、植物群落の遷移、エネルギーの流れ、計算問題演習	○			
	2	(前期期末考査)					
9	3	生殖の方法	減数分裂、生殖細胞の形成、問題演習	○			
	4	動物の発生	発生の過程、問題演習	○	○		
	5	発生のしくみ	原基分布図、誘導、問題演習	○			
	1	刺激の受容と伝達	受容器と効果器、問題演習	○			
10	2	神経系と動物の行動	神経系の種類、動物の行動、問題演習		○		
	3	植物の反応と調節	植物ホルモン、問題演習		○		
	4	植物の生活と環境	外部要因と光合成速度、光合成曲線	○	○	○	
	5	生体の機能とタンパク質	酵素、筋肉、抗体	○			
	1	生物の進化と分類	進化のしくみ、進化説、進化の証拠		○		
11	2	総合問題演習・実験		○	○	○	
	3	総合問題演習・実験		○	○	○	
	4	(後期中間考査)					
	5	総合問題演習・実験		○	○	○	
12	1	総合問題演習・実験		○	○	○	
	2	総合問題演習・実験		○	○	○	
	3	総合問題演習・実験		○	○	○	
	4						
	5	(冬季休業)					
1	1						
	2						
	3	総合問題演習・実験		○	○	○	
	4	総合問題演習・実験		○	○	○	
	5	(後期期末考査)					
2	1						
	2						
	3						
	4						
	1	(家庭学習期間)					
3	2						
	3						

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	理 科	学年	3 学年	単位数	3 単位
科目名	物理研究	担当者	若原 正人		
使用教材	数研出版『物理』 リードLightノート 物理 (数研出版)				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 物理的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理学的に探究する能力と態度を育てる。 2 基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。 				
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業前に教科書を読み、重要語句・中学校での既習事項を確認する。 2 授業では、板書を写すことにとどまらず、計算過程や式の変形の過程を自分自身で繰り返し、理解を深める。 3 問題集を解き、理解度を確認する。小テストごとに復習する。復習なくして、知識や問題を解く力の定着は見込めない。プリントの発展的な問題にも積極的に取り組もう。 				
必ず取り組む 最小目標	<ul style="list-style-type: none"> ・問題から物理量を抜き出すことができる。 ・適用する公式を見つけて使うことができる。 				
実現したいと 思う最大目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自然現象から物理量を設定することができる。 ・自然の中に潜む物理法則を見い出すことができる。 				
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	単元テスト 問題演習	単元テスト 問題演習	ペアワーク・グループワーク リフレクション演習	
	A	物理や物理現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観や、自然界のさまざまな事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養を身につけているとともに、物理学的な方法で物理や物理現象に関する問題を取り扱い、観察・実験の技能を習得している。	物理学的な方法で物理や物理現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえることができ、物理現象について探究する場合に、それらを個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的にとらえ、表現することができる。	物理や物理現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や物理学的に探究する能力と態度を身につけようとする。	
B	物理や物理現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観や、自然界のさまざまな事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養を概ね身につけているとともに、物理学的な方法で物理や物理現象に関する問題を取り扱い、観察・実験の技能を概ね習得している。	物理学的な方法で物理や物理現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえることが概ねでき、物理現象について探究する場合に、それらを個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的にとらえ、表現することが概ねできる。	物理や物理現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や物理学的に探究する能力と態度を身につけようとして概ねしている。		
C	物理や物理現象について、それらの基本的な概念や原理・法則の理解がなく、科学的な自然観や、自然界のさまざまな事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養が身につけておらず、物理学的な方法で物理や物理現象に関する問題を取り扱い、観察・実験の技能も習得していない。	物理学的な方法で物理や物理現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえることができず、物理現象について探究する場合に、それらを個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的にとらえ、表現することもできない。	物理や物理現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や物理学的に探究する能力と態度を身につけようとしていない。		

年間計画			評価の観点			
月	週	単元 学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
4	2	(入学式)				
	3	第3章 電流と磁場	1.磁場			
	4		2.電流のつくる磁場		○	
	5		3.電流が磁場から受ける力	○		
5	1	(連休)				
	2	第4章 電磁誘導と電磁波	4.ローレンツ力		○	
	3		1.電磁誘導の法則	○		
	4		2.自己誘導と相互誘導		○	
	5					○
6	1	(前期中間考査)				
	2	第4章 電磁誘導と電磁波	3.交流の発生	○		
	3		4.交流回路①		○	
	4			4.交流回路②		○
1	第4章 電磁誘導と電磁波		5.電磁波	○		
2		(学校祭)				
3		第1章 電子と光	1.電子①		○	
4		第1章 電子と光			○	
5						
1	(夏季休業)					
8	2					
	3					
	4					
	5	第1章 電子と光	1.電子②		○	
	1	第1章 電子と光	2.光の粒子性①	○		
2	(前期期末考査)					
3	2.光の粒子性②		○			
4	3.X線			○		
9	5	第1章 電子と光	4.粒子の波動性	○	○	
	1		第2章 原子と原子核	1.原子の構造とエネルギー 準位	○	
	2			2.原子核	○	
	3			3.放射線とその性質		○
	4	4.核反応と核エネルギー		○		
11	5	(後期中間考査)				
	1	物理学が築く未来	5.素粒子①	○		
	2					
	3		総合問題演習			
	4					
12	5	(冬季休業)				
	1	総合問題演習				
	2					
	3					
	4					
1	5	(後期期末考査)				
	1	(家庭学習期間)				
	2					
	3					
	4					
3	1					
	2					
	3					

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	理科	学年	3 学年	単位数	3 単位
科目名	地学基礎	担当者	森秀夫		
使用教材	地学基礎 (東京書籍)				
	ニューサポート地学基礎(東京書籍)				
学習目標	1 日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高める。				
	2 目的意識をもって観察, 実験などを行い, 地学的に探究する能力と態度を育てる。				
	3 地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ, 科学的な見方や考え方を養う。				
	4				
学習方法	1 授業に集中し, 板書を書き写すのみならず, 説明をよく聞き, 内容を理解する。				
	2 原則单元ごと行われる小テストに向けて, 家庭学習に取り組み, 基礎知識を固める。				
	3 問題集などでの復習に努め, より多様な観点から, 地球の成り立ちやその構造, 変化, 宇宙等を理解する。				
必ず取り組む 最小目標					
実現したいと 思う最大目標					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	・定期考査, 課題 ・休み明けテスト ・小テスト, 単元テスト	・定期考査 ・課題の取り組み状況	・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況	
	A	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに, 科学的に探究するために必要な観察, 実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている	自然の事物・現象から問題を見だし, 見通しをもって観察, 実験などを行い, 得られた結果を分析して解釈し, 表現するなど, 科学的に探究している。	自然の事物・現象に主体的に関わり, 見通しをもったり振り返ったりするなど, 科学的に探究している。	
B	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解している。あるいは, 科学的に探究するために必要な観察, 実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている	自然の事物・現象から問題を見だしている。または, 見通しをもって観察, 実験などを行い, 得られた結果を分析して解釈し, 表現するなど, 科学的に探究している。	自然の事物・現象に主体的に関わっている。あるいは, 見通しをもったり振り返ったりするなど, 科学的に探究しようとしている。		
C	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解していない。科学的に探究するために必要な観察, 実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けていない。	自然の事物・現象から問題を見いだせない。見通しをもって観察, 実験などを行っていない。得られた結果を分析して解釈し, 表現するなど, 科学的に探究していない。	自然の事物・現象に主体的に関わっていない。見通しをもったり振り返ったりするなど, 科学的に探究しようとしていない。		

年間計画			評価の観点				
月	週	単元	学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	2	(入学式)					
4	3	1編 私たちの大地	1章 大地とその動き				
	4		1節) 地球の形と大きさ	○			
	5		2節) 地球の構造 3節) 地球内部の動きとプレート	○			
	1	(連休)					
5	2		3節) 地球内部の動きとプレート		○	○	
	3		4節) 大地形の形成と地質構造 5節) 変成岩と変成作用	○	○		
	4		2章 火山活動と地震				
	5		1節) 火山噴火と多様性 2節) 火成岩	○			
	2	(前期中間考査)					
6	3		3節) 地震の発生 4節) 地震が起こる場所		○	○	
	4	2編 私たちの海と空	1章 地球の熱収支				
	5		1節) 地球大気の特徴	○			
	2		2節) 地球大気で起こる現象 3節) 地球の熱収支		○		
	2	(学校祭)					
7	3		2章 大気と海水の運動				
	4		1節) 大気や海水の運動の原因 2節) 大気の大循環	○			
	5						
	1	(夏季休業)					
8	2						
	3						
	4						
	5		3節) 海水とその運動	○			
	1		4節) 大気と海洋の相互作用		○		
	2	(前期期末考査)					
9	3	3編 私たちの宇宙の誕生	1章 宇宙の構造と進化				
	4		1節) 宇宙の誕生と宇宙の姿		○		
	5		2節) 太陽系の誕生	○		○	
	1		3節) 太陽系の構成	○			
	2		4節) 太陽の特徴		○		
10	3		5節) 地球の特徴	○	○		
	4	4編 私たちの地球の歴史	1章 地層と化石の観察				
	5		1節) 地層の形成 2節) 地層からわかる情報		○	○	
	1		2章 古生物の変遷と地球環境				
	2		1節) 地球史の最初期 2節) 先カンブリア時代 3節) 古生代	○			
11	3		4節) 中生代 5節) 新生代 6節) 人類の進化 7節) 地球環境の変化における生物の変遷	○		○	
	4	(後期中間考査)					
	5	5編 地球に生きる私たち	1章 日本の自然の恵みと防災				
	1		1節) 日本の自然環境の特徴 2節) 日本の自然の恵み 3節) 気象災害と防災		○	○	
	2		4節) 地震による災害と防災 5節) 火山による災害と防災	○		○	
12	3		終1章 地球環境の考え方 1節) 地球環境の考え方		○		
	4						
	5	(冬季休業)					
	1						
	2						
1	3		終2章 自然環境の変動 1節) 自然環境の変化 2節) 人間活動がもたらす自然環境の変化		○		
	4		終3章 これからの地球環境 1節) 世界の取り組み 2節) 代替エネルギー 3節) 持続可能な発展	○	○	○	
	5	(後期期末考査)					
	1						
2	2						
	3						
	4						
	1	(家庭学習期間)					
3	2						
	3						

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	保健体育		学年	3 学年	単位数	3 単位
科目名	体育		担当者	市山貴一・加藤武志・豊田裕子・奥 恭平		
使用教材						
学習目標	<p>1 運動の多様性・体力の必要性を理解し、それらの技能を身に付け、活用する力を養う。</p> <p>2 課題の発見・解決のために思考、判断するとともに、それを他者に伝える力を養う。</p> <p>3 公正・協力・責任・参画などの意欲を育て、生涯にわたり継続的に運動に親しむ資質・能力を養う。</p>					
学習方法	<p>1 積極的に授業に参加し、その種目の知識や技能、そして安全について理解する。</p> <p>2 自己やチームについて課題の発見と解決を目指し、周囲とコミュニケーションをとりながら練習や試合の工夫に取り組む。</p> <p>3 ペアワークやグループワークにより、身体活動と共に、言語活動が活発になるよう積極的に取り組む。</p>					
必ず取り組む最小目標						
実現したいと思う最大目標						
評価の方法及び	<p>学期末・学年末の学業成績の評価・評定は学習指導要領の各教科の評価の観点及びその趣旨や特性を踏まえて、観点別評価をし、総合的に判断して行う。</p> <p>①評価の主な観点(3観点)は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」とする。</p> <p>②前・後期末の成績は、3観点評価及び5段階評価を行う。</p> <p>③学年末の成績は、その年度分を総合的に評価し、3観点評価及び5段階評定を行う。</p>					
評価基準 ルーブリック	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・技能テスト ・ルールテスト ・観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・グループ活動の取り組み状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への取り組み状況 		
評価基準については別紙参照						

評価基準		知識	技能	思考・判断	表現	主体性
5	A	①技術・戦術の名称を教えられるレベル ②ルールが教えられる主審レベル	①とても技能が高く、求めた課題ができる ・連携して得点を奪える・守備ができる ・仲間がプレイしやすい技能レベル ②各種目に必要な体力が身についている	①自分、他者、チームの良い点や改善点を発見できる ②課題の解決方法を具体的に言える ③楽しむための方法を見つけることができる ④拍手したくなるプレーをする	①成果や改善点を他者に伝えることができる ②個性豊かユニーク	①自らの意思で積極的かつ正確に動く ②助け合う教え合う ③諦めずに取り組んでいる。
4	A・B	①技術・戦術を理解している ②ルールの理解をしている副審レベル	①技能が高く、求めた課題が形になっている ・各種目の技能を試合で発揮できる ・動きながらプレーできる ②各種目に必要な体力が概ね身についている	①自分の良い点や改善点を発見できる ②良い点や課題を見つけることができる ③良い点や課題を意識して動くことができる ④プレーに関わろうとする意欲が高い	①作戦を話し合うことができる ②一生懸命だが単純 一生懸命ではないがユニーク	①自らの意思で動く ②指示されたことは正確に動く ③積極的に準備・体操 ④安全確保できる ⑤興味関心のあるものの取り組み状況が良好。
3	B	①技術・戦術理解が不十分 ②得点係レベル	・技能はやや劣るが一生懸命で求めた課題は概ねできる ・練習で各種目の技能を発揮できる	①指示されたことに対し課題を達成しようとしている ②流れに合やすことができる。 ③自身の取り組みについて振り返ることができる	①作戦を話し合いに参加できる ②まねる	①指示されたら動く指示通り行動できる。 ②フェアプレー
2	B・C	①技術・戦術理解はほとんどない	①求めた課題ができることもある 基本的な技能が不十分 ②動けない	①指示された課題のみ取り組んでいる ②課題を意識しない。 ③プレー等に関わろうとする意欲が低い	①話し合いに参加できない ②模倣もできない	①人任せ ②指導者が不安になり確認を求める
1	C	①まったく理解していない	①求めた課題ができない。	①考えて取り組んでいない ②課題を見つけることができない。	①取り組み内容不十分	①取り組み内容不十分 ②指示を聞かない。 ③スポーツマンシップに反するプレー

年間計画			評価の観点				
月	週	単元	学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	2	(入学式)					
4	3	オリエンテーション	授業についての説明			○	
	4	体づくり運動、体育理論	集団行動、体ほぐしの運動、実生活に生かす運動の計画、器械運動、長距離走			○	
	5	体づくり運動、体育理論	各種体ほぐしの運動、実生活に生かす運動の計画、器械運動、長距離走			○	
	1	(連休)					
5	2	体づくり運動、新体力テスト	長距離、新体力テスト(外種目)		○		
	3	体育理論			○		
	4	I 期	男子:バスケットボール 女子:サッカー、ソフトボール			○	
	5	I 期	〃			○	
	1	(前期中間考査)					
6	2	I 期	〃		○		
	3	I 期	〃		○		
	4	I 期	〃	○	○		
	1	II 期	男子:ソフトボール 女子:ソフトテニス、バスケットボール		○		
7	2	(学校祭)					
	3	II 期	〃		○		
	4	II 期	〃		○		
	5						
8	1	(夏季休業)					
	2						
	3						
	4						
	5	II 期	〃	○	○		
9	1	体育理論			○	○	
	2	(前期期末考査)					
	3	体育大会練習			○	○	
	4	体育大会練習			○	○	
	5	体育理論			○	○	
10	1	III 期	男子:ソフトテニス 女子:ミニバレー			○	
	2	III 期	〃		○	○	
	3	III 期	〃	○	○		
	4	体育理論					
	5	IV 期	バレーボール/卓球(男女共修)		○		
11	1	IV 期	〃	○	○		
	2	IV 期	〃	○			
	3	IV 期	〃			○	
	4	(後期中間考査)				○	
	5	IV 期	〃	○			
12	1	軽スポーツ	バドミントン(男女共修)		○	○	
	2	〃	〃	○		○	
	3	〃	〃			○	
	4						
	5	(冬季休業)					
1	1						
	2						
	3	〃	〃			○	
	4	〃	〃			○	
	5	(後期期末考査)					

令和7年度 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	保健体育	学年	3学年	単位数	3 単位
科目名	生涯スポーツ	担当者	市山 貴一・加藤武志・奥 恭平		
使用教材					
学習目標	<p>1 生涯におけるスポーツライフの実現を目指し理解を深める。</p> <p>2 学ぶ意欲や自分で課題を見付ける能力を養う。</p> <p>3 自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動する能力を養う。</p>				
学習方法	<p>1 積極的に授業に参加し、知識や技能や安全について理解する。</p> <p>2 自己の課題やチームの課題の解決を目指して、練習や試合の工夫に取り組む。</p> <p>3 生徒自ら、主体的に学習を進めていく場面を多く取り入れていく。</p>				
必ず取り組む 最小目標					
実現したいと 思う最大目標					
評価の方法 及び	<p>学期末・学年末の学業成績の評価・評定は学習指導要領の各教科の評価の観点及びその趣旨や特性を踏まえて、観点別評価をし、総合的に判断して行う。</p> <p>①評価の主な観点(3観点)は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」とする。</p> <p>②前・後期末の成績は、3観点評価及び5段階評価を行う。</p> <p>③学年末の成績は、その年度分を総合的に評価し、3観点評価及び5段階評定を行う。</p>				
評価基準 ルーブリック	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価 方法	<ul style="list-style-type: none"> ・技能テスト ・ルールテスト ・観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・グループ活動の取り組み状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への取り組み状況 	
評価基準については別紙参照					

評価基準		知識	技能	思考・判断	表現	主体性
5	A	①技術・戦術の名称を教えられるレベル ②ルールが教えられる主審レベル	①とても技能が高く、求めた課題ができる ・連携して得点を奪える・守備ができる ・仲間がプレイしやすい技能レベル ②各種目に必要な体力が身についている	①自分、他者、チームの良い点や改善点を発見できる ②課題の解決方法を具体的に言える ③楽しむための方法を見つけることができる ④拍手したくなるプレーをする	①成果や改善点を他者に伝えることができる ②個性豊かユニーク	①自らの意思で積極的かつ正確に動く ②助け合う教え合う ③諦めずに取り組んでいる。
4	A・B	①技術・戦術を理解している ②ルールの理解をしている副審レベル	①技能が高く、求めた課題が形になっている ・各種目の技能を試合で発揮できる ・動きながらプレーできる ②各種目に必要な体力が概ね身についている	①自分の良い点や改善点を発見できる ②良い点や課題を見つけることができる ③良い点や課題を意識して動くことができる ④プレーに関わろうとする意欲が高い	①作戦を話し合うことができる ②一生懸命だが単純 一生懸命ではないがユニーク	①自らの意思で動く ②指示されたことは正確に動く ③積極的に準備・体操 ④安全確保できる ⑤興味関心のあるものの取り組み状況が良好。
3	B	①技術・戦術理解が不十分 ②得点係レベル	・技能はやや劣るが一生懸命で求めた課題は概ねできる ・練習で各種目の技能を発揮できる	①指示されたことに対し課題を達成しようとしている ②流れに合やすことができる。 ③自身の取り組みについて振り返ることができる	①作戦を話し合いに参加できる ②まねる	①指示されたら動く指示通り行動できる。 ②フェアプレー
2	B・C	①技術・戦術理解はほとんどない	①求めた課題ができることもある 基本的な技能が不十分 ②動けない	①指示された課題のみ取り組んでいる ②課題を意識しない。 ③プレー等に関わろうとする意欲が低い	①話し合いに参加できない ②模倣もできない	①人任せ ②指導者が不安になり確認を求める
1	C	①まったく理解していない	①求めた課題ができない。	①考えて取り組んでいない ②課題を見つけることができない。	①取り組み内容不十分	①取り組み内容不十分 ②指示を聞かない。 ③スポーツマンシップに反するプレー

年間計画

月	週	単 元	学 習 内 容
4	2	(入学式)	
	3	オリエンテーション	年間計画、授業のルール、注意事項の確認
	4	体力トレーニング	体づくり運動、自重を使ったウエイトトレーニング、縄跳び等
	5	〃	〃
5	1	(連休)	
	2	ゴルフ・バドミントン(雨天)	基本的技術の習得
	3	〃	ルール、戦術の理解
	4	〃	スキルテストの実施(技術評価)
	5	〃	試合(自己評価)
6	1	(前期中間考査)	
	2	ハンドボール	基本的技術の習得、ルール、戦術の理解、スキルテストの実施(技術評価) 試合(自己評価)
	3	〃	
	4	〃	
5	〃		
7	1	(学校祭)	
	2	(学校祭)	
	3	〃	〃
	4	〃	〃
	5	(夏季休業)	
8	1	(夏季休業)	
	2	(夏季休業)	
	3	(夏季休業)	
	4	(夏季休業)	
	5	パラスポーツ(シッティングバレー)	パラスポーツの歴史を知り、「する」「みる」をキーワードに、パラスポーツの理解を深め
9	1	〃	〃
	2	(前期期末考査)	
	3	〃	〃
	4	ソフトテニス	基本的技術の習得、ルール、戦術の理解、スキルテストの実施(技術評価)
	5	〃	試合(自己評価)
10	1	〃	〃
	2	フロアカーリング・ボッチャ	基本的技術の習得、ルール、戦術の理解、スキルテストの実施(技術評価)
	3	〃	試合(自己評価)
	4	〃	〃
	5	〃	〃
11	1	〃	〃
	2	〃	〃
	3	〃	〃
	4	(後期中間考査)	
	5	ハンドボール	基本的技術の習得、ルール、戦術の理解、スキルテストの実施(技術評価) 試合(自己
12	1	〃	〃
	2	〃	〃
	3	〃	〃
	4	(冬季休業)	
	5	(冬季休業)	
1	1	(冬季休業)	
	2	(冬季休業)	
	3	〃	〃
	4	〃	〃
	5	(後期期末考査)	

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	芸術		学年	3 学年	単位数	4 単位
科目名	書道 I		担当者	比企 絢子		
使用教材	書道 I (東京書籍)					
	新編 応用ペン習字(教育図書)					
学習目標	1 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。					
	2 書よさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書美を味わい捉えたりすることができるようにする。					
	3 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。					
	4					
学習方法	1 毛筆による古典の臨書・創作による表現技術の錬磨と育成。					
	2 硬筆による書写能力の向上。					
	3 自己評価・他己評価などによる鑑賞能力の育成。					
必ず取り組む最小目標	全単元の課題を提出すること。					
実現したいと思う最大目標	書の古典臨書を生かした作品制作と、硬筆または毛筆書写検定合格。					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	作品提出		作品提出、振り返りシート		振り返りシート、学習への取り組み
	A	書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身につけ、十分に表している。		感性を働かせながら書美を感じ取り、自らの意図に基づいて構想し、表現を十分に工夫している。		主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組んだ。
	B	書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身につけ、表している。		感性を働かせながら書美を感じ取り、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。		主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとした。
C	書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身につけ、表そうとしている姿勢が見られる。		感性を働かせながら書美を感じ取り、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫しようとしている姿勢が見られる。		他者からの援助を受けながら、書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。	

年間計画			評価の観点					
月	週	単元	学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
4	2	(入学式)						
	3	生活に広げる	<ul style="list-style-type: none"> ・便箋や封筒の宛名、履歴書など、改まった場面で使われる書式について理解し、場面に応じて書く。 ・はがきやカードなど、身近な場面で気持ちを伝えるために書くものについて理解し、自分たちの創意を生かして書く。 	○		○		
	4			○		○		
	5			○	○	○		
	5			○	○	○		
5	1	(連休)						
	2	生活に広げる	<ul style="list-style-type: none"> ・便箋や封筒の宛名、履歴書など、改まった場面で使われる書式について理解し、場面に応じて書く。 ・はがきやカードなど、身近な場面で気持ちを伝えるために書くものについて理解し、自分たちの創意を生かして書く。 	○		○		
	3			○		○		
	4			○		○		
	5			○	○	○		
6	2	(前期中間考査)						
	3	篆刻と落款 創作—落款印を刻そう— 鑑賞—篆刻の美や風趣を味わおう—	<ul style="list-style-type: none"> ・落款の意味や種類について理解する。 ・篆刻の用具・用材や落款印の手順について理解する。 ・篆刻の作品を鑑賞する。 	○		○		
	4			○		○		
	5			○	○	○		
	5			○	○	○		
7	1	書写で学んできたこと	中学校書写で学習したことの確認として、楷書と楷書に調和する仮名について学習する。	○	○	○		
	2	(学校祭)						
	3	用具、用材	書道の学習に必要な用具・用材について理解し、丁寧に扱う態度を養う。	○		○		
	4	漢字の成立と変遷、楷書の特徴	漢字の成立と変遷について理解する。楷書の用筆、運筆、結構や字形の取り方について理解し、練習する。	○		○		
	5							
8	1	(夏季休業)						
	2							
	3							
	4							
	5	「九成宮醴泉銘」 「孔子廟堂碑」	<ul style="list-style-type: none"> ・楷書の古典を臨書する意義について理解する。 ・楷書の古典を鑑賞し、その美について理解する。 ・楷書の古典の概要を理解し、用筆、運筆、字形の取り方などについて学び、「表現の特徴」を手がかりとして臨書する。 	○	○	○		
9	1	(前期期末考査)						
	2							
	3	「雁塔聖教序」 「自書告身」	<ul style="list-style-type: none"> ・楷書の古典を臨書する意義について理解する。 ・楷書の古典を鑑賞し、その美について理解する。 ・楷書の古典の概要を理解し、用筆、運筆、字形の取り方などについて学び、「表現の特徴」を手がかりとして臨書する。 	○	○	○		
	4	○	○	○				
	5	創作—言葉と書を調和させよう— 鑑賞—書の美や風趣を味わおう—	映画『書道ガールズ』の鑑賞、創作の手順に従い、表現の工夫で学んだ技法を生かして、意図に基づいて創作し、相互評価をする。近現代の作品を鑑賞する。表具をおこなう。	○	○	○		
10	1	「蘭亭序」	・行書の古典を臨書する意義について理解する。※「人物と時代」なども活用する。	○	○	○		
	2	「争坐位文稿」	・行書の古典を鑑賞し、その美について理解する。	○	○	○		
	3	隷書の特徴「曹全碑」	「曹全碑」の臨書を通して、隷書の用筆、運筆、字形の取り方などについて理解する。	○	○	○		
	4	篆書の特徴「泰山刻石」	「泰山刻石」の臨書を通して、篆書の用筆、運筆、字形の取り方などについて理解する。	○	○	○		
	5							
11	1	「隅寺心経」	楷書小字作品としての写経について理解を深める。	○	○	○		
	2							
	3	仮名の成立、仮名を書く準備	仮名の成立と変遷、仮名の用具・用材の特徴、仮名の基本的な線について理解し、練習する。	○	○	○		
	4	(後期中間考査)						
	5	平仮名の単体、変体仮名、連綿	平仮名の単体の特徴、変体仮名、連綿について理解し、練習する	○	○	○		
12	1	創作—大切な人に贈る年賀状—	仮名の学習を生かし、大切な人に贈る年賀状を創作する。	○	○	○		
	2			○	○	○		
	3			○	○	○		
	4			○	○	○		
	5	(冬季休業)						
1	1							
	2							
	3	創作—後輩への贈り物—	これまでの学習の集大成として、卒業式、入学式で掲示する本校校歌を書道選択者全員で揮毫する。	○	○	○		
	4			○	○	○		
	5			(学期休業)				
5								
2	1	(学習期間)						
	2							
	3							
3	1							
	2							
	3							

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	芸術		学年	3 学年	単位数	3 単位
科目名	美術 I		担当者	川橋 雪弘		
使用教材	高校生の美術(日本文教出版)					
	表現、創作活動に係る道具材料(スケッチブック、筆、絵の具、制作キットなど)					
	プロジェクター、スクリーンあるいは大型TV					
学習目標	1 作品を捉える造形的な視点について理解を深めることによって、自分のイメージに応じて表現方法を工夫し、創造的に制作することができるようにする。					
	2 自分なりに発想し構想を練り、絵画やデザインなどの表現する活動や作品を鑑賞する活動を通して、自己を表現する力や作品の良さを感じ取る力を伸ばします。					
	3 自分なりに発想し構想を練り、絵画やデザインなどの表現する活動や作品を鑑賞する活動を通して、自己を表現する力や作品の良さを感じ取る力を伸ばします。					
	4					
学習方法	1 美術の様々な分野やテーマに沿って、作品制作を行います。					
	2 美術に関わる様々な知識や情報についてプリント学習や演習を行います。					
	3 作品提出後は生徒相互の作品を鑑賞し、感想を書く活動を行います。					
必ず取り組む最小目標	自分の思い描く作品制作を行う。					
実現したいと思う最大目標	美術作品や関わる事象の見方や感じ方に気付き、積極的に作品や言語で表現しようとすることができる。					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	プリントの取り組み、作品の制作の過程と提出をふまえて評価します。		プリント課題や作品構想、鑑賞学習の取り組みと、制作手順の理解と計画性などを評価		制作や課題の取り組みとその提出状況及び、道具材料の準備や片付けの様子を評価
	A	プリント内容を理解し、課題に取り組み必ず提出した。課題に興味を持ち、題材の特性を生かして制作し作品を提出した。		作品の構想をよく練り、計画的に制作に取り組むことができた。作品の良さに目を止め鑑賞し、感想を文章化することができた。		楽しんで制作し作品に反映することができた。制作手順を考え道具材料を準備することができた。進んで道具、材料の片付けや清掃をすることができた。
	B	プリント内容を理解し、課題に取り組み提出した。課題に興味を持ち、題材の特性を生かして制作し作品を提出した。		作品の構想を練り、計画的に制作に取り組むことができた。作品を鑑賞し、感想を文章化することができた。		楽しんで制作できた。道具材料を準備することができた。道具、材料の片付けや清掃をすることができた。
C	プリントや課題の理解が不足していて取り組みなかった。課題に興味せず、雑な作品制作に陥り題材の提出ができなかった。		制作手順を理解せず確認しながら制作することができた。作品鑑賞の観点に気づけず、うまく感想を書くことできなかった。		促されて制作した。自ら道具材料を準備することができなかった。道具、材料の片付けなどが中途半端であった。	

年間計画			評価の観点				
月	週	単 元	学 習 内 容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	2	(入学式)					
4	3	オリエンテーション	授業のルール説明	○	○	○	
	4	ドローイングあれこれ	ドローイングの実習、制作	○	○	○	
	5	ドローイングあれこれ	ドローイングの制作	○	○	○	
	1	(連休)					
5	2	コラージュ	デザイン、絵画、コラージュ	○	○	○	
	3	コラージュ	デザイン、絵画、コラージュ	○	○	○	
	4	春を描く(風景画)	水彩画、写真	○	○	○	
	5	春を描く(風景画)	水彩画、写真	○	○	○	
	1	(前期中間考査)					
6	2	色の学習	デザイン、3原色、12色相環図制作	○	○	○	
	3	色の学習	デザイン、3原色、12色相環図制作	○	○	○	
	4	夏を涼しむ	うちわ制作	○	○	○	
	1	夏を涼しむ	うちわ制作	○	○	○	
	2	(学校祭)					
7	3	彫刻	木材や粘土で彫刻を制作する	○	○	○	
	4	彫刻	木材や粘土で彫刻を制作する	○	○	○	
	5						
	1	(夏季休業)					
8	2						
	3						
	4						
	5	芽高美術館	模写(絵画、彫塑)	○	○	○	
	1	芽高美術館	模写(絵画、彫塑)	○	○	○	
	2	(前期期末考査)					
9	3	オリジナルキャラクター	彫塑、粘土制作	○	○	○	
	4	オリジナルキャラクター	彫塑、粘土制作	○	○	○	
	5	ステンドグラス風	ガラス細工	○	○	○	
	1	ステンドグラス風	ガラス細工	○	○	○	
10	2	秋を探して	水彩画、写真	○	○	○	
	3	秋を探して	水彩画、写真	○	○	○	
	4	デザイングラフィック	パッケージ、キャラクター制作	○	○	○	
	5	グラフィックデザイン	パッケージ、キャラクター制作	○	○	○	
	1	コマドリ動画制作	スマートフォン、動画作成アプリ利用、材料自由	○	○	○	
11	2	コマドリ動画制作	スマートフォン、動画作成アプリ利用、材料自由	○	○	○	
	3	コマドリ動画制作	スマートフォン、動画作成アプリ利用、材料自由	○	○	○	
	4	(後期中間考査)					
	5	石で作る	勾玉造りキット使用	○	○	○	
	1	石で作る	勾玉造りキット使用	○	○	○	
12	2	トリックアート	絵画、シュール絵画、空想画	○	○	○	
	3	トリックアート	絵画、シュール絵画、空想画	○	○	○	
	4						
	5	(冬季休業)					
	1						
	2						
1	3	18歳の輪郭2	自画像制作(画材は自由)	○	○	○	
	4	18歳の輪郭2	自画像制作(画材は自由)	○	○	○	
	5	(後期期末考査)					
	1						
2	2						
	3						
	4						
	1	(家庭学習期間)					
3	2						
	3						

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	芸術		学年	3 学年	単位数	3 単位
科目名	音楽表現	担当者	辻 正博			
使用教材	改訂 音楽通論 各楽器ごとの楽譜					
学習目標	<p>1 様々な音楽を理論も含めて総合的に学習することによって、生涯にわたって音楽を愛好しようとする心情を育てます。</p> <p>2 器楽などの表現する活動や音楽を鑑賞する活動を通して、自己を表現する力や音楽の良さを感じ取る力を伸ばします。</p> <p>3 我が国や諸外国の音楽の学習を通して、世界の音楽芸術・文化の良さを認め合う心情を育てます。</p> <p>4</p>					
学習方法	<p>1 主に器楽演奏を中心に実技・実習を行います。(楽器の選択肢は限られます)</p> <p>2 自主的に課題を見つけ解決していくことと、練習に集中する忍耐力が必要です。</p> <p>3</p>					
必ず取り組む最小目標	楽典・器楽演奏(独奏・アンサンブル)・演奏発表会					
実現したいと思う最大目標	学習内容の定着、各楽器の奏法等の習熟・個々の演奏に取り組む楽曲に対する理解					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。					
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	評価方法	筆記試験や実技試験、発表会を通してこれまで学んできた成果を評価します。	筆記試験や実技試験、発表会を通してこれまで学んできた成果を評価します。	授業中における取組状況や態度、課題提出状況などにより評価します。		
	A	楽譜・音符(楽典)について深く理解した。 音楽史・作品・背景などを深く理解した。 歌唱・器楽演奏能力が著しく向上した。	題材に対して深く考えた。 歴史や背景をよく理解した。 演奏する曲(楽譜)に対して深く理解し、演奏の表現に十分つなげることができた。	深く楽しんでできた。 広く協力しておこなった。 より集中してできた。		
B	楽譜・音符(楽典)について理解した。 音楽史・作品・背景などを理解した。 歌唱・器楽演奏能力が向上した。	題材に対してよく考えた。 歴史や背景を理解した。 演奏する曲(楽譜)に対して理解し、演奏の表現につなげることができた。	楽しんでできた。 協力しておこなった。 集中してできた。			
C	楽譜・音符(楽典)について理解しなかった。 音楽史・作品・背景などを理解しなかった。 歌唱・器楽演奏能力が向上しなかった。	題材に対してよく考えなかった。 歴史や背景からの理解しなかった。 演奏する曲(楽譜)に対して理解が深まらず、演奏の表現に至らなかった。	楽しくなかった。 協力しなかった。 集中できなかった。			

年間計画			評価の観点				
月	週	単元	学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	2	(入学式)					
4	3	オリエンテーション・楽典	授業のルール徹底、音楽理論	○	○	○	
	4	楽典・ソルフェージュ	音楽理論・聴音	○	○	○	
	5	楽典・ソルフェージュ	音楽理論・聴音	○	○	○	
	1	(連休)					
5	2	楽典・ソルフェージュ	音楽理論・聴音	○	○	○	
	3	楽典・ソルフェージュ	音楽理論・聴音	○	○	○	
	4	楽典・ソルフェージュ	音楽理論・聴音	○	○	○	
	5	楽典・ソルフェージュ	音楽理論・聴音	○	○	○	
	1	(前期中間考査)					
6	2	楽典・ソルフェージュ	音楽理論・聴音	○	○	○	
	3	楽典・ソルフェージュ	音楽理論・聴音	○	○	○	
	4	器楽演習	アルトリコーダー	○	○	○	
7	1	器楽演習	アルトリコーダー	○	○	○	
	2	(学校祭)					
	3	器楽演習	アルトリコーダー	○	○	○	
	4	器楽演習	リコーダーアンサンブル	○	○	○	
	5						
8	1	(夏季休業)					
	2						
	3						
	4						
	5	器楽演習	リコーダーアンサンブル	○	○	○	
9	1	器楽演習	リコーダーアンサンブル	○	○	○	
	2	(前期期末考査)					
	3	器楽演習	クラシックギター	○	○	○	
	4	器楽演習	クラシックギター	○	○	○	
	5	器楽演習	クラシックギター	○	○	○	
10	1	器楽演習	クラシックギター	○	○	○	
	2	器楽演習	演奏発表会に向けて各自で楽器を選択し演習(練習)を行う[個別指導]	○	○	○	
	3	器楽演習	演奏発表会に向けて各自で楽器を選択し演習(練習)を行う[個別指導]	○	○	○	
	4	器楽演習	演奏発表会に向けて各自で楽器を選択し演習(練習)を行う[個別指導]	○	○	○	
	5	器楽演習	演奏発表会に向けて各自で楽器を選択し演習(練習)を行う[個別指導]	○	○	○	
11	1	器楽演習	演奏発表会に向けて各自で楽器を選択し演習(練習)を行う[個別指導]	○	○	○	
	2	器楽演習	演奏発表会に向けて各自で楽器を選択し演習(練習)を行う[個別指導]	○	○	○	
	3	器楽演習	演奏発表会に向けて各自で楽器を選択し演習(練習)を行う[個別指導]	○	○	○	
	4	(後期中間考査)					
	5	器楽演習	これまでの練習の成果を確認(中間発表)	○	○	○	
12	1	器楽演習	演奏発表会に向けて各自で楽器を選択し演習(練習)を行う[個別指導]	○	○	○	
	2	器楽演習	演奏発表会に向けて各自で楽器を選択し演習(練習)を行う[個別指導]	○	○	○	
	3	器楽演習	演奏発表会に向けて各自で楽器を選択し演習(練習)を行う[個別指導]	○	○	○	
	4						
	5	(冬季休業)					
1	1						
	2						
	3	器楽演習	演奏発表会に向けて各自で楽器を選択し演習(練習)を行う[個別指導]	○	○	○	
	4	演奏発表会	これまでの練習の成果を演奏会形式で発表	○	○	○	
	5	(後期期末考査)					
2	1						
	2						
	3						
	4						
	1						
3	2						
	3						

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	外国語		学年	3 学年	単位数	3 単位
科目名	英語コミュニケーションⅡ	担当者	田中 秀治			
使用教材	Grove English Communication II (文英堂)					
	教科書ワークブック、e-learning					
学習目標	1	日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話しの展開や話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。				
	2	日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすることができる。				
	3	日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の文で詳しく話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。				
	4	日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の文で詳しく話して伝えることができる。				
	5	日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落からなる文章で詳しく書いて伝えることができる。				
学習方法	1	プリントによる課題・・・授業(①ワードサーチ ②音読 ③内容理解・文法問題 ④表現活動)				
	2	新出語の意味確認・発音練習 → 本文の内容理解(文法事項も含む) → 本文の音読練習 → 本文に関する自分の考えをアウトプット				
	3	英作文(Brainsに入力、英作文テスト)				
必ず取り組む最小目標						
実現したいと思う最大目標						
評価の方法及び評価基準ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評価を行う。また、それらを総括して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。					
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	評価方法	・定期考査 ・小テスト	・定期考査 ・英作文・小テスト	・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況 ・英作文・小テスト		
	A	外国語の音声や語彙、表現、文法の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことにおいて、目的や場面、状況などに応じて、多様にかつ自在に活用する技能を身に付けている。 (80%程度以上の達成状況)	日常的な話題や社会的な話題について、読んだり聞いたりした情報や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて論理的に注意して表現したり伝え合ったりする力を身に付けている。 (80%程度以上の達成状況)	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に情報や自分の考え・気持ちなどを論理的に注意して詳しく表現しようとして伝え合おうとしたりする態度を身に付けている。 (80%程度以上の達成状況)		
B	外国語の音声や語彙、表現、文法の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことにおいて、目的や場面、状況などに応じて、多様にかつ自在に活用する技能を概ね身に付けている。 (30～79%程度の達成状況)	日常的な話題や社会的な話題について、読んだり聞いたりした情報や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて論理的に注意して表現したり伝え合ったりする力を概ね身に付けている。 (30～79%程度の達成状況)	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に情報や自分の考え・気持ちなどを論理的に注意して詳しく表現しようとして伝え合おうとしたりする態度を概ね身に付けている。 (30～79%程度の達成状況)			
C	外国語の音声や語彙、表現、文法の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことにおいて、目的や場面、状況などに応じて、多様にかつ自在に活用する技能を身に付けていない。 (29%程度以下の達成状況)	日常的な話題や社会的な話題について、読んだり聞いたりした情報や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて論理的に注意して表現したり伝え合ったりする力を身に付けていない。 (29%程度以下の達成状況)	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に情報や自分の考え・気持ちなどを論理的に注意して詳しく表現しようとして伝え合おうとしたりする態度を身に付けていない。 (29%程度以下の達成状況)			

年間計画			評価の観点				
月	週	単元	学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
4	2	(入学式)					
	3	L6 Our Advanced Network Society	・ネットワークの社会の利便性と危険性について知る。	○			
	4	〃	・先端技術の進化によってひらかれる未来について理解する。		○		
	5	〃	・ネットワーク社会の危険性と技術革新でひらかれる未来について、意見を交換したり、発表したりする。			○	
5	1	(連休)					
	2	〃	「S+V+O+C」「S+V+C」の表現を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする。	○	○	○	
	3	L7 Connecting with People	・社会的なつながりが人に与える影響について知る。	○			
	4	〃	・社会的なつながりを支援する取り組みについて理解する。		○		
	5	〃	・社会的なつながりが人に与える影響とそれを支援する取り組みについて、意見を交換したり、発表したりする。			○	
6	1	(前期中間考査)					
	2	〃	・比較の表現、関係代名詞の用法を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする。	○	○	○	
	3	L8 Practice Makes Perfect	・大澤さんが国際製パンコンテストに挑むまでの経緯について知る。	○			
	4	〃	・大澤さんがコンテストで1位をとれた理由について理解する。		○		
7	1	〃	・大澤さんが偉業を成しとげた経緯とその理由について、意見を交換したり、発表したりする。			○	
	2	(学校祭)					
	3	〃	・関係副詞とその用法、分詞構文の表現を理解して、聞いたり、書いたり、読んだり、話したりする。	○	○	○	
	4						
	5						
8	1	(夏季休業)					
	2						
	3						
	4						
	5						
9	1	(前期期末考査)					
	2						
	3	L9 The world Without Honeybees	・ミツバチの有益性について知る。	○			
	4	〃	・ミツバチの現象・消滅によって起こる危機について理解する。		○		
	5	〃	・ミツバチの有益性と減少・消滅によって起こる危機について、意見を交換したり、発表したりする。			○	
10	1	〃	・仮定法を含む表現を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする。	○	○	○	
	2	L10 The Forth Bridge:					
	3	An Iconic Landmark in Scotland	・スコットランドのフォース橋がどのような橋かについて理解する。	○			
	4	〃	・スコットランドのフォース橋がどのようにして造られたかについて理解する。		○		
	5	〃	・スコットランドのランドマークであるフォース橋について、意見を交換したり、発表したりする。			○	
11	1	〃	・倒置、省略、同格のthat、付帯状況のwithの表現を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする。	○	○	○	
	2						
	3						
	4	(後期中間考査)					
	5	For Reading 2					
12	1	Rickshaw Girl	・世界で最も貧しい国の1つであるバングラディッシュの社会や市民の生活を理解する。	○			
	2	〃	・登場人物の関係と心情を理解する。ストーリー展開と結末を理解する。		○		
	3	〃	・長い英文を読むことに慣れる。			○	
	4						
	5	(冬季休業)					
1	1						
	2						
	3			復習	○	○	
	4			復習	○	○	
	5	(後期期末考査)					
2	1	(家庭学習期間)					
	2						
	3						
	4						
3	1						
	2						
	3						

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	外国語		学年	3 学年	単位数	2 単位
科目名	論理・表現Ⅱ		担当者	原林有里		
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・Vision Quest Hope Ⅱ ・Vision Quest Hope Ⅱ ワークブック ・Brains e-learning(タブレット) 					
学習目標	<p>1 「話すこと(やり取り)」「話すこと(発表)」「書くこと」を中心とした統合的な言語活動を通して、発信能力を強化するための発展的な活動を行うとともに、論理の構成や展開を工夫して詳しく伝えたり、伝えあったりすることができる能力を養う。</p> <p>2 日常的・社会的な話題について、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張、課題の解決策などを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝え合うことができるようにする。</p> <p>3 日常的・社会的な話題について、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようにする。</p> <p>4 日常的・社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。</p> <p>5</p>					
学習方法	<p>1 Workbook(文法演習)</p> <p>2 Try it out!&Expressing(自己表現活動)</p> <p>3 Logic Focus(パラグラフライティング)</p>					
必ず取り組む最小目標						
実現したいと思う最大目標						
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・課題 ・スピーキングテスト・発表 		<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・課題 ・スピーキングテスト・発表 		<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への取り組み状況 ・課題 ・定期考査 ・スピーキングテスト・発表
	A	英語の特徴やきまりに関する事項及びその働きや役割を理解している。目的や場面、状況に応じて、自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりして伝え合うことができる技能を身に付けている。		目的や場面、状況に応じて、自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりして伝えあっている。		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手・読み手など他者に配慮しながら、主体的・自律的に表現しようとしている。
	B	英語の特徴やきまりに関する事項及びその働きや役割をある程度理解している。目的や場面、状況に応じて、自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりして伝え合うことができる技能をある程度身に付けている。		目的や場面、状況に応じて、自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、話したり書いたりして伝えあっている。		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手・読み手など他者に配慮しながら、表現しようとしている。
C	基準Bを満たしていない。		基準Bを満たしていない。		基準Bを満たしていない。	

年間計画			評価の観点		
月	週	単元 学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	2	(入学式)			
4	3	Lesson1 将来の目標(主語)	○		
	4	将来の夢や実現するための努力について、文と文のつながりを意識して文章を書く。		○	○
	5	Lesson2 学校生活(動詞)	○		
	1	(連休)			
5	2	留学生のために催したい学校行事について、自分の考えや詳細を順序立てて説明する。		○	○
	3	Lesson3 スポーツ(時制・完了形)	○		
	4	好きなスポーツ選手や彼らの達成について、具体例や情報を加えて説明するパラグラフを書く。		○	○
	2	(前期中間考査)			
6	3	Lesson4 情報化時代(助動詞)	○		
	4	ソーシャルメディアの利点と欠点について話し合い、その意見を比較・対比するパラグラフを書く。		○	○
	5	Lesson5 環境問題(形容詞句・形容詞的用法)	○		
7	1	深刻な環境問題について、理由や因果関係を示すパラグラフを書く。		○	○
	2	(学校祭)			
	3	Lesson6 文化(関係詞)	○		
	4	海外旅行者の傾向について、自分の主張や理由の根拠を示す引用を用いて、パラグラフを書く。		○	○
	1	(夏季休業)			
8	2				
	3				
	4				
	1	(前期期末考査)			
9	2				
	3	Lesson7 言語教育(副詞・副詞句)	○		
	4	公用語について書かれた記事の構成や要点を理解し、要約をパラグラフにまとめる。		○	○
10	1	Lesson8 社会(話法・伝達表現)	○		
	2	日本の教育制度に関する発表を聞き、要点を理解し、要約をパラグラフにまとめる。		○	○
	3	Lesson9 願望(仮定法)	○		
	4	自分の願望について、詳細な説明や理由を付け加えてスピーチする。		○	○
11	1	Lesson10 科学技術(数量を表す表現)	○		
	2	AIと共に生きるのに何が重要かについて、資料やデータを示して発表する。		○	○
	3	(後期中間考査)			
12	4	Lesson11 健康(原級・比較級・最上級)	○		
	1	「10代の若者は8～9時間の睡眠をとるべきか」という議題のディベートにおいて、自分の立場から主張や根拠となる考えを述べる。		○	○
	2	Lesson12 ビジネス(否定)	○		
	3	チョコレートの売り上げを伸ばすのに重要なことについて、グループで共に意見や考えを出し合い、ディスカッションする。		○	○
1	4				
	5	(後期期末考査)			
	1				
2	2				
	3				
	4	(家庭学習期間)			
3	1				
	2				
	3				

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	外国語		学年	3 学年	単位数	4 単位
科目名	英語実践	担当者	原林有里・古市敦史			
使用教材	キクタンリーディング 4000語レベル(アルク)					
	Follow up 英文法 標準ドリル(数研出版)					
	UNITE 英語総合問題集 STAGE2.5(数研出版)					
	ICT教材 Brains e-learning					
学習目標	1 外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深める。					
	2 将来の目標に向けて、幅広い話題について語彙を増やし、英語で読んだり、理解できるように努める。					
	3 問題演習を繰り返し行い、リーディング、ライティング、リスニングに対応できる実力を育成する					
学習方法	1 予習 文法・構文を理解しながら、問題演習に取り組む。					
	2 授業 キクタンで単語学習をし、Follow upとUniteで文法学習を理解し、読解問題、リスニング問題に取り組む。					
	3 復習 授業での重要事項を確認して定着させる					
必ず取り組む最小目標	英文の概要をおおまかにとらえる					
実現したいと思う最大目標	英語のリーディング、ライティング、リスニングを意識して学習する					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。					
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 ICTテスト結果 キクタン単語テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 英作文 発表活動 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 課題提出(UNITEノート) 英作文提出 		
	A	<ul style="list-style-type: none"> 知識技能の問題において80%以上の得点である。 ICTテストにおいて80%以上の得点である。 キクタンテストで80%以上 	英作文においては、文法・語彙を正しく使用し、論理的に分かりやすく書かれている。	学習活動に積極的で、適切に課題提出をしている。		
	B	<ul style="list-style-type: none"> 30～79%以上の得点である。 	英作文において、文法・語彙に多少間違いはあるが、内容は伝わる。	課題提出において期日後に提出した。		
C	<ul style="list-style-type: none"> 知識技能の問題において30%以下 	英作文において、文法、語彙の間違いが多すぎて、内容が伝わらない。	課題提出において未提出のものがある。			

年間計画			評価の観点			
月	週	単 元	学 習 内 容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	2	(入学式)				
	3	文型	Follow up ICTテスト	○		○
	4	文の種類	Follow up ICTテスト	○		○
	5	時制・発表	UNITE・発表		○	○
5	1	(連休)				
	2	時制	Follow up ICTテスト	○		○
	3	時制	UNITE・発表		○	○
	4	助動詞	Follow up ICTテスト	○		○
	5	助動詞	UNITE・発表		○	○
6	2	(前期中間考査)		○	○	○
	3	受動態	Follow up ICTテスト	○		○
	4	受動態	UNITE・発表		○	○
	5	不定詞	Follow up ICTテスト	○		○
7	1	不定詞	Follow up ICTテスト	○		○
	2	(学校祭)				
	3	不定詞	UNITE・発表		○	○
	4	動名詞	Follow up ICTテスト	○		○
	5					
8	1	(夏季休業)				
	2					
	3					
	4					
	5	動名詞	UNITE・発表		○	○
9	1	不定詞・動名詞	UNITE・発表		○	○
	2	(前期期末考査)		○	○	○
	3	分詞	Follow up ICTテスト	○		○
	4	分詞	UNITE・発表		○	○
	5	準動詞	UNITE・発表		○	○
10	1	比較	Follow up ICTテスト	○		○
	2	比較	Follow up ICTテスト	○		○
	3	比較	UNITE・発表		○	○
	4	関係詞	Follow up ICTテスト	○		○
	5	関係詞	Follow up ICTテスト	○		○
11	1	関係詞	UNITE・発表		○	○
	2	仮定法	Follow up ICTテスト	○		○
	3	仮定法	UNITE・発表		○	○
	4	(後期中間考査)		○	○	○
	5	否定	Follow up ICTテスト	○		○
12	1	否定	UNITE・発表		○	○
	2	無生物主語	Follow up ICTテスト	○		○
	3	無生物主語	UNITE・発表		○	○
	4					
	5	(冬季休業)				
1	1					
	2					
	3	歴史文化	UNITE・発表		○	○
	4	歴史文化	UNITE・発表		○	○
	5	(3学年後期期末考査)		○	○	○
2	1					
	2					
	3	(後期期末考査)				
	4					
3	1	(高校入試)				
	2					
	3					

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	家庭科		学年	3 学年	単位数	3 単位
科目名	保育基礎		担当者	小林 郁美		
使用教材	教科書「保育基礎」(実教出版)					
	資料集「生活ハンドブック」(第一学習社)					
学習目標	1 保育に関わる課題について思考を深め、課題を発見する。					
	2 実際に乳幼児とふれあう学習など、実践的な学習活動を行う。					
	3 保育に関わる課題について思考を深め、課題を発見する。					
	4					
学習方法	1 教科書、資料集、ワークシート、タブレットを使用し、教室で授業、グループワークなどを行う。					
	2 学んだ内容をもとに調理室において調理実習を行う。					
	3 学んだ内容をもとに、校内校外において探究活動を行う。					
必ず取り組む最小目標						
実現したいと思う最大目標						
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	★定期考査 ワークシート 実習		定期考査 ワークシート ★実習		定期考査 ★ワークシート 実習
	A	保育に関する基礎的・基本的な技術を総合的に十分身につけている。子どもの発達の特性、生活と保育に関する知識を総合的に身につけている。		子どもの発達や保育に関わる現状について理解を深めた上で課題を見つけ、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を十分身につけている。		子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの健やかな発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度を十分身につけている。
	B	保育に関する基礎的・基本的な技術をおおむね身につけている。子どもの発達の特性、生活と保育に関する知識をおおむね身につけている。		子どもの発達や保育に関わる現状について理解を深めた上で課題を見つけ、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力をおおむね身につけている。		子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの健やかな発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度をおおむね身につけている。
C	保育に関する基礎的・基本的な技術が不十分である。子どもの発達の特性、生活と保育に関する知識が不十分である。		子どもの発達や保育に関わる現状について理解を深めた上で課題を見つけ、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力が不十分である。		子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの健やかな発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度が不十分である。	

年間計画			評価の観点			
月	週	単 元	学 習 内 容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	2	(入学式)				
	3	オリエンテーション	保育基礎について			○
	4	保育の意義	保育とは	○		
	5		保育の意義	○		
	1	(連休)				
5	2	保育の方法	保育者の役割とは	○		
	3		一人ひとりに合わせた指導		○	
	4	保育の環境	家庭での保育	○		
	5		幼児教育・保育の場		○	
	1	(前期中間考査)				
6	2	子どもの発達の特徴	発達と保育	○		
	3		発達の共通性と個別性		○	
	4	子どものからだの発達	発育・発達の評価	○		
	1		身体的特徴		○	
7	2	(学校祭)				
	3		生理的特徴			○
	4	子どもの心の発達	社会・情緒的な発達	○		
	5					
	1	(夏季休業)				
8	2					
	3					
	4					
	5		知的発達		○	
	1		言葉の発達			○
9	2	(前期期末考査)				
	3	子どもの文化の意義と支える場	子どもの文化	○		
	4		子どもの文化の意義と支える場		○	
	5	子どもの遊びと表現活動	遊びと発達	○		
	1		子どもの遊びと表現活動		○	○
10	2		ハロウィンパーティーを企画しよう		○	○
	3		〃		○	○
	4		〃		○	○
	5		〃		○	○
	1	子どもの生活と養護	生活と健康	○		
11	2		栄養と食事		○	
	3		衣生活			○
	4	(後期中間考査)				
	5		おもちゃ作り		○	○
	1		〃		○	○
12	2		〃		○	○
	3		〃		○	○
	4					
	5	(冬季休業)				
	1					
1	2					
	3	子どもの福祉	児童福祉	○		
	4		子どもが育つ社会環境		○	
	5	(後期期末考査)				
	1					
2	2					
	3					
	4					
	1	(家庭学習期間)				
3	2					
	3					

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	商 業		学年	3 学年	単位数	4 単位
科目名	ビジネス基礎		担当者	横田 たき子		
使用教材	ビジネス基礎(実教出版)					
	高校生からのビジネスマナー、事例探求ワークブック					
学習目標	1 商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、ビジネスの意義や役割を理解する。					
	2 ビジネスのの諸活動を主体的かつ倫理観をもって行い、経済社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を養う。					
	3 経済社会の一員としての心構えを持ち、ビジネスの諸活動に適切に対応できるような能力・態度を身につける。					
学習方法	1 自分の理解を補うために、積極的にメモをとりながら授業を受けましょう。					
	2 学習内容が実社会のどのような活動を指しているのか、さまざまな事柄に興味を持ち、積極的な態度で授業を受けましょう。					
	3 毎時間の授業を大切に、課題は期限を守ってしっかりと取り組みましょう。					
必ず取り組む 最小目標	真面目な態度で授業を受け、課題には丁寧に取り組む。					
実現したいと 思う最大目標	ビジネスの理念を理解し、責任ある職業人となるにふさわしい態度を身に付ける。					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価 方法	定期考査 実技テスト 課題		課題 実技テスト 事例探求		課題 実技テスト 事例探求
	A	商業の学習及びビジネスの概要について理解することができる。		商業を学ぶこと及びビジネスの意義と課題について、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展と関連付けて見いだすことができる。		ビジネスの基礎的な事項について自ら学び、ビジネスに主体的かつ協働的に取り組むことができる。
	B	商業の学習及びビジネスの概要について概ね理解することができる。		商業を学ぶこと及びビジネスの意義と課題について、見いだすことができる。		ビジネスに主体的かつ協働的に取り組むことができる。
	C	商業の学習及びビジネスの概要について理解することができていない。		商業を学ぶこと及びビジネスの意義と課題について、見いだすことができない。		ビジネスに主体的かつ協働的に取り組む努力が必要である。

年間計画			評価の観点				
月	週	単 元	学 習 内 容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	2	(入学式)					
4	3	社会人常識マナー検定対策	社会常識・コミュニケーション	○	○	○	
	4		社会常識・コミュニケーション	○	○	○	
	5		ビジネスマナー	○	○	○	
	1	(連休)					
5	2		ビジネスマナー	○	○	○	
	3		過去問演習	○	○	○	
	4		過去問演習	○	○	○	
	5		過去問演習	○	○	○	
	2	(前期中間考査)			○	○	
6	3	社会人の心構えと働き方	仕事のルールと自己管理・働く姿勢・チームの一員として働く心構え	○	○	○	
	4	ビジネスマナー	挨拶とお辞儀・ビジネスフレーズ・クッション言葉	○	○	○	
	5		敬語の使い方	○	○	○	
	1		電話の応対	○	○	○	
	2	(学校祭)					
7	3		訪問のマナー	○	○	○	
	4		受付応対と案内のマナー	○	○	○	
	5						
	1	(夏季休業)					
8	2						
	3						
	4						
	5		冠婚葬祭のマナー	○	○	○	
	1	ビジネススキル①	ビジネス文書	○	○	○	
	2	(前期期末考査)			○	○	
9	3	ビジネスと企業	企業とは	○	○	○	
	4		経営組織の種類と運営	○	○	○	
	5	資金調達	資金と資金調達、資金調達の仕方、資金調達に伴う責任	○	○	○	
	1	企業活動と税	税の役割と種類、税の申告と納付	○	○	○	
	2		雇用に伴う企業の責任	○	○	○	
10	3	売買取引の手順	売買契約、売買契約の締結・履行	○	○	○	
	4	代金決済	現金、小切手、約束手形	○	○	○	
	5		銀行振込と口座振替、キャッシュレス決済	○	○	○	
	1	ビジネス計算	ビジネス計算の基礎	○	○	○	
	2		ビジネス計算の応用	○	○	○	
11	3		ビジネス計算の応用	○	○	○	
	4	(後期中間考査)			○	○	
	5	ビジネススキル②	ワープロソフト・表計算ソフト利用の技術	○	○	○	
	1		〃	○	○	○	
	2		〃	○	○	○	
12	3		〃	○	○	○	
	4						
	5	(冬季休業)					
	1						
	2						
1	3	まとめ	ビジネスの探求と発表		○	○	
	4		〃		○	○	
	5	(後期期末考査)					
	1						
2	2						
	3						
	4						
	1	(家庭学習期間)					
3	2						
	3						

令和7年度(2025年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	商 業		学年	3 学年	単位数	3 単位
科目名	課題研究		担当者	横田 たき子		
使用教材	全経簿記検定試験2級PAST(英光社)					
学習目標	<p>1 商業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化を図る。</p> <p>2 問題解決の能力や自発的創造的な学習態度を身に着ける。</p> <p>3 活動成果の検証と改善を繰り返した継続的な学習態度を身に着ける。</p>					
学習方法	<p>1 自分の理解を補うために、積極的にメモをとりながら授業を受けましょう。</p> <p>2 学習方法の改善、工夫を心掛けましょう。また、複数人で行う業務は共同を心掛けましょう。</p> <p>3 企業のビジネス活動について常に探求心を持ち、小さな疑問を大切に自ら調べる習慣をつけましょう。</p>					
必ず取り組む最小目標	真面目な態度で授業を受け、課題には丁寧に取り組む。					
実現したいと思う最大目標	自発的で継続的な学習態度を身に着ける。					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 課題 		<ul style="list-style-type: none"> 課題 レポート 発表 		<ul style="list-style-type: none"> 課題 レポート 発表
	A	自ら設定した課題に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、課題解決の意義について理解している。		商業に関する専門的な知識と技術の深化を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に課題を解決する方法を適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。		商業に関する専門的知識に関心を持ち、商業に関する課題を生徒自らが設定し、自ら学ぶ目標を定め、自ら学び考えるなど主体的に取り組もうとするとともに、自発的、創造的に学習に取り組む態度を身に付けている。
B	自ら設定した課題に関する基礎的・基本的な知識を概ね理解している。		身に付けた商業に関する知識と技術を基に、課題を解決する方法を判断し、表現しようとしている。		商業に関する専門的知識に関心を持ち、商業に関する課題に主体的・協働的に取り組もうとしている。	
C	自ら設定した課題に関する基礎的・基本的な知識を理解することができていない。		身に付けた商業に関する知識と技術を基に、課題を解決する方法を判断し、表現しようとしていない。		商業に関する専門的知識に関心がなく、商業に関する課題に主体的・協働的に取り組む努力が必要である。	

年間計画			評価の観点				
月	週	単 元	学 習 内 容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
4	2	(入学式)					
	3		小問別練習 小テスト	○	○	○	
	4	簿記検定演習	↓	○	○	○	
	5			○	○	○	
5	1	(連休)					
	2		検定模擬問題演習	○	○	○	
	3		↓	○	○	○	
	4		簿記検定	○	○	○	
	5		記帳練習	○	○	○	
6	2	(前期中間考査)			○		
	3	模擬取引	個人企業の模擬取引	○	○	○	
	4		取引(同時同業)	○	○	○	
	5		//	○	○	○	
7	1		決算	○	○	○	
	2	(学校祭)					
	3		取引(自由取引①)	○	○	○	
	4		//	○	○	○	
	5						
8	1	(夏季休業)					
	2						
	3						
	4						
	5		決算	○	○	○	
9	1		決算	○	○	○	
	2	(前期期末考査)					
	3		取引(自由取引②)	○	○	○	
	4		//	○	○	○	
	5		//	○	○	○	
10	1		決算	○	○	○	
	2		決算	○	○	○	
	3	財務諸表分析	報告式の貸借対照表・損益計算書	○	○	○	
	4		安全性を見る指標	○	○	○	
	5		成長性を見る指標	○	○	○	
11	1		セグメント情報	○	○	○	
	2		会社、業界調べ	○	○	○	
	3		事例研究	○	○	○	
	4	(後期中間考査)					
	5		決算説明会資料・株主総会資料の研究	○	○	○	
12	1		会社紹介と貸借対照表分析レポート作成	○	○	○	
	2		//	○	○	○	
	3		企業分析の発表、評価	○	○	○	
	4						
	5	(冬季休業)					
1	1						
	2						
	3		企業分析の発表、評価	○	○	○	
	4		//	○	○	○	
	5	(後期期末考査)					
2	1						
	2						
	3						
	4	(家庭学習期間)					
3	1						
	2						
	3						